



令和5年度 普及指導活動のまとめ

上北地域県民局地域農林水産部

令和5年度 普及指導活動のまとめ



決め手は、青森県産。

上北地域県民局地域農林水産部

表紙の写真について

令和5年5月16日
切りいも栽培実施者
個別巡回指導

令和5年12月28日
一本松集落 鏡餅づくり

令和5年11月9日
ヤングファーマーゼミナール
若手農業者視察研修

令和5年7月7日
水稻栽培講習会

令和5年度普及指導活動のまとめ

令和6年3月発行

編集・発行／ 上北地域県民局地域農林水産部
青森県十和田市西十二番町20-12
(県十和田合同庁舎内)
電話 (0176)22-8111(代表)
(0176)23-4281(直通)
印刷・製本／ ワタナベサービス株式会社

この冊子は 360 部作成し、印刷経費は一部あたり 484 円です。

は し が き

令和5年を振り返ると、4月からの気温は平年並からやや高めに推移し、農作物の生育は概ね順調に推移しましたが、7月下旬から9月上旬に記録的な猛暑が続いたことにより、キャベツ、こかぶ、だいこん、にんじん、トマトなど夏期の作型で品質低下や発芽不良、米で白未熟粒発生による等級低下、乳牛で乳量減少など、高温による被害が発生しました。

農作物の作柄は、ながいも、ごぼうなどの主力野菜で概ね良好な結果となり、水稻の作況指数（南部・下北）は102のやや良となったものの、1等米比率は現行検査が始まった平成16年以降で最低の68%となりました。

販売価格は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行し、3年にわたって続いた多方面の制約が解除されたことに加え、夏の猛暑の影響で野菜の流通量が減ったこともあり、多くの農作物で順調に推移しましたが、牛肉の需要減少により子牛の取引価格が年間を通して低迷しました。

当農業普及振興室では、「攻めの農林水産業」推進上北地方本部の活動方針と普及指導計画に基づき、地域農業の活性化に向けた取組を進めてきました。

具体的には、地域の経営体、農業協同組合、市町村等と連携しながら、コアとなる集落営農組織の育成、ながいもやにんにくの生産技術向上による産地力強化、新規就農者や若手農業者の育成、自動操舵トラクタなどスマート農業機械の普及、女性農業者の活躍促進による農山漁村の活性化、急激な物価高騰等に対応した農業経営の継続・発展への支援等に取り組みました。

本冊子は、これらの取組や、地域的情勢、農業者の動向等を取りまとめたものです。御支援、御協力いただきました関係者の皆様に心から御礼申し上げますとともに、今後の参考となれば幸いです。

令和6年3月

上北地域県民局地域農林水産部長

内 山 俊 二

目次

○ 地域農林水産部の組織体制及び農業普及振興室の班体制

I 写真で見る今年度のトピックス

- | | | |
|---|-----------------------------|---|
| 1 | 野菜・水稲・畜産における高温・干ばつの影響 | 1 |
| 2 | 中部上北地域の水田農業推進に向けた取組 | 3 |
| 3 | 集落営農組織の収益性改善に向けた新たなチャレンジを支援 | 3 |
| 4 | 「共助・共存の農山漁村づくり」モデル集落の取組支援 | 4 |
| 5 | 水稲新品種「はれわたり」良食味安定生産に向けた取組 | 4 |
| 6 | 農協が中心となった稲WC S生産を支援 | 5 |

II 表彰及び認定

- | | | |
|---|---|----|
| 1 | 令和5年度「全国優良経営体表彰」販売革新部門
全国担い手育成総合支援協議会会長賞受賞
～おとべ農産合同会社 乙部英夫氏（東北町）～ | 7 |
| 2 | 農業経営士・青年農業士の認定 | 8 |
| 3 | あおもり土づくりの匠の認定 | 10 |

III 普及指導活動の実績

- | | | |
|-----|-------------------------------|----|
| 1 | 令和5年度普及指導計画に基づく主な普及指導活動 | |
| (1) | 栽培基本技術の徹底によるながいも産地力強化 | 11 |
| (2) | ながいもの産地実態を踏まえた高品質安定生産による産地強化 | 12 |
| (3) | 大豆の安定生産と省力・低コスト技術の導入による収益性の向上 | 13 |
| (4) | 新規就農者の定着と経営管理能力の強化 | 14 |
| (5) | 次代に引き継ぐ上北集落営農活性化 | 15 |
| 2 | 普及関連組織の活動状況 | |
| (1) | 農業士会 | 16 |
| (2) | かみきたVIC・ウーマンの会 | 18 |
| (3) | かみきた農と暮らしの研究会 | 19 |
| (4) | とわだグリーン・ツーリズム研究会 | 20 |
| (5) | 農村青少年クラブ | 21 |
| 3 | 普及情報の発行・発信 | |
| (1) | かみきた楽農通信 | 23 |
| (2) | 上北農業生産情報 | 23 |
| (3) | インターネットサイトによる情報提供 | 23 |

IV 令和5年度実施事業

1 農業普及振興室直営事業

(1) 持続可能な中部上北スタイル水田農業推進事業（県民局重点枠）	25
(2) 次代に引き継ぐ上北地域集落営農活性化事業（県民局重点枠）	26
(3) 地域農業を支える普及活動推進事業（県単）	27
(4) 農山漁村女性起業課題解決・活躍促進事業（国庫）	28
(5) 農福の輪を広げる人財育成推進事業（国庫）	29
(6) あおもりの「食」を育む食育県民運動推進事業（国庫・県単）	29
(7) 放射性物質モニタリング調査（県単）	30
(8) 青森県特別栽培農産物認証制度（県単）	31
(9) 新規就農者定着推進事業（県単）	32
(10) あおもり新農業人サポート事業（県単）	33
(11) 青森県型地域共生社会の実現に向けた地域経営確立事業（県単）	35
(12) 農山漁村女性が伝え継ぐ青森の食と技魅力創造事業（国庫）	36
(13) 指定種子検査事業（県単）	37

2 補助金・交付金事業

(1) 青森県農林水産関連原油・原材料価格高騰等対策事業（県単）	39
(2) 青森県農林水産関連物価高騰等対策事業（県単）	40
(3) 青森県野菜等産地力強化支援事業（県単）	41
(4) 環境保全型農業直接支払交付金（国庫）	42
(5) 農業委員会交付金等（国庫）	43
(6) 新規就農者育成総合対策事業（国庫）	44
(7) 地域計画策定推進緊急対策事業（国庫）	45
(8) 経営所得安定対策直接支払推進事業（国庫）	46
(9) 農地利用効率化等支援交付金（国庫）	47
(10) 担い手確保・経営強化支援事業（国庫）	47

3 その他の事業

(1) あおもりながいも産地力強化推進事業（国庫）	48
(2) 技術力で未来へつなぐ青森にんにくブランド強化事業（県単）	49

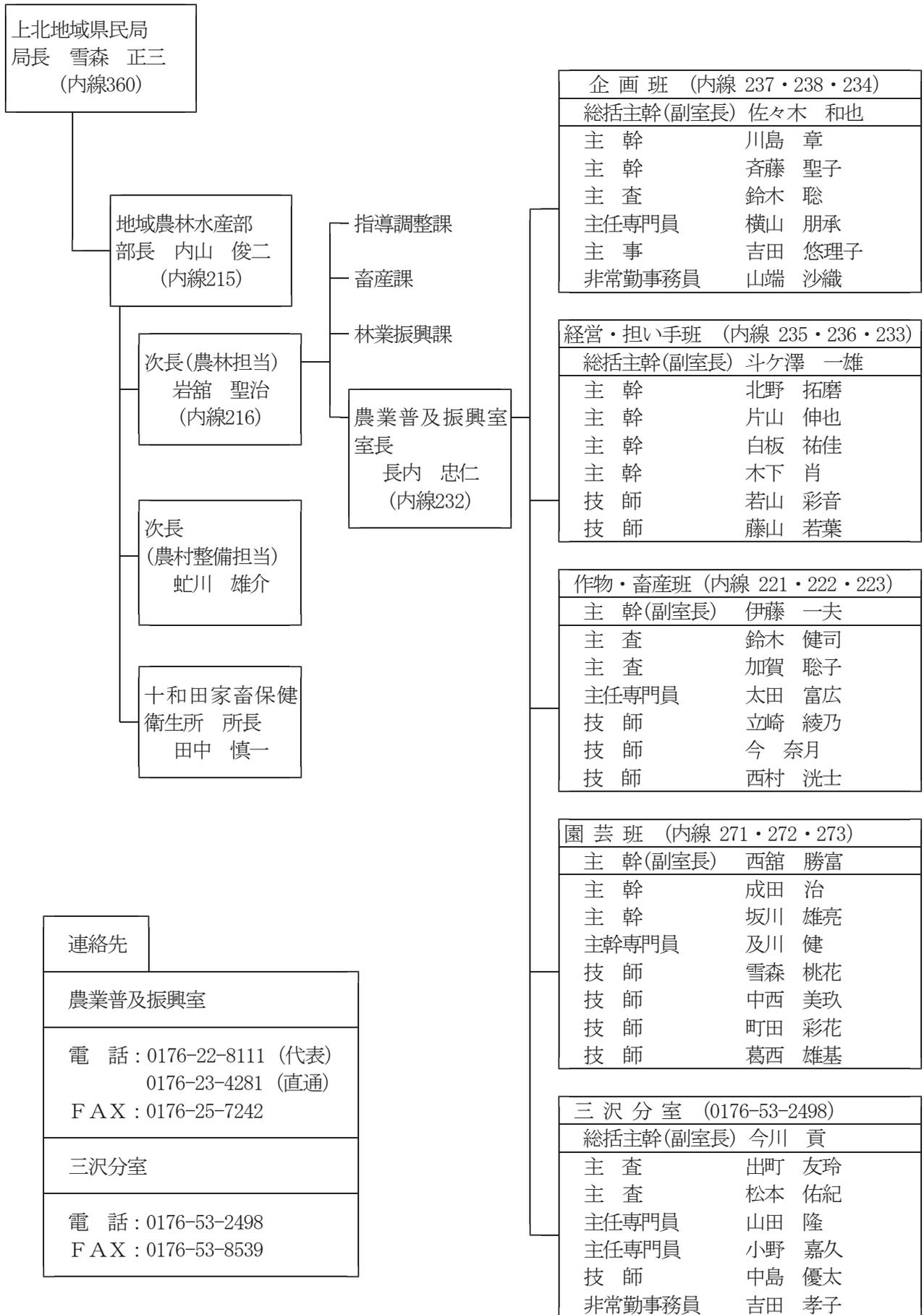
V 気象経過と農作物の生育状況

1	気象経過の概要と半旬別気象図	51
2	水稲	54
3	畑作物	57
4	野菜	59
5	花き	64
6	果樹	65
7	飼料作物	66
8	気象災害	67

VI 付表

1	地域農業の概要	69
2	令和5年度生育観測ほ及び各種展示ほ一覧	74
3	上北地域の農業士会	78
4	かみきたVIC・ウーマンの会	79
5	かみきた農と暮らしの研究会	79
6	とわだグリーン・ツーリズム研究会	79
7	農村青少年クラブ	80
8	直売運営団体	81
9	「攻めの農林水産業」推進上北地方本部構成機関及び委員	82

○ 地域農林水産部の組織体制及び農業普及振興室の班体制
(令和5年4月1日現在)



連絡先
農業普及振興室
電話：0176-22-8111 (代表) 0176-23-4281 (直通) FAX：0176-25-7242
三沢分室
電話：0176-53-2498 FAX：0176-53-8539

企画班 (内線 237・238・234)	
総括主幹(副室長) 佐々木 和也	
主幹	川島 章
主幹	斉藤 聖子
主査	鈴木 聡
主任専門員	横山 朋承
主事	吉田 悠理子
非常勤事務員	山端 沙織

経営・担い手班 (内線 235・236・233)	
総括主幹(副室長) 斗ヶ澤 一雄	
主幹	北野 拓磨
主幹	片山 伸也
主幹	白板 祐佳
主幹	木下 肖
技師	若山 彩音
技師	藤山 若葉

作物・畜産班 (内線 221・222・223)	
主幹(副室長) 伊藤 一夫	
主査	鈴木 健司
主査	加賀 聡子
主任専門員	太田 富広
技師	立崎 綾乃
技師	今 奈月
技師	西村 洸士

園芸班 (内線 271・272・273)	
主幹(副室長) 西館 勝富	
主幹	成田 治
主幹	坂川 雄亮
主幹専門員	及川 健
技師	雪森 桃花
技師	中西 美玖
技師	町田 彩花
技師	葛西 雄基

三沢分室 (0176-53-2498)	
総括主幹(副室長) 今川 貢	
主査	出町 友玲
主査	松本 佑紀
主任専門員	山田 隆
主任専門員	小野 嘉久
技師	中島 優太
非常勤事務員	吉田 孝子

I 写真で見る今年度のトピックス

1 野菜・水稲・畜産における高温・干ばつの影響

今夏は記録的猛暑で農作物被害や家畜の健康被害が問題となり、大きく取上げられた。

野菜では7月下旬から9月上旬にかけて高温で経過し、お盆の時期は気温が下がったもののキャベツのチップバーンや株腐病の発生、だいこんの黒芯症の発生、こかぶの横縞症や葉の白化症状、洗浄中の割れの発生、秋にんじんの発芽不良、夏秋トマトの結実障害や裂果の発生、さやいんげんの着果不良や奇形の発生等、多くの作物が高温の被害を受けた。これを受け、東北町では農水産業生産指導推進本部委員会を9月20日に開催して被害状況を共有し、野菜研究所などの説明を参考に関係者が協力して対応していくことを確認した。



だいこんの黒芯症



だいこんのほ場廃棄



こかぶの横縞症



こかぶ葉の白化



トマトの裂果



キャベツのチップバーン

I 写真で見る今年度のトピックス

水稲では、生育期間を通して平均気温が平年より高かったため、草丈は平年を上回り、茎数は平年並、葉数は0.9枚多くなった（7月14日調査時）。管内の幼穂形成期は平年より5日早く、出穂最盛期は平年より6日早かった。

出穂最盛期後の8月の平均気温は平年より4.5℃高く、夜温も下がらなかったため、高温下での登熟となり、白未熟粒が多発し落等要因となった。9月の平均気温も平年より3.2℃高かったため、登熟も早まり、刈取最盛期は平年より12日早かった。



六戸町 生育観測ほ出穂(8/1)平年比6日早



六戸町 生育観測ほ成熟期(9/10)平年比14日早

乳牛の生乳生産における影響が大きくなる最高気温23℃付近に到達したのは、アメダス（野辺地）によると、今年は5月第4半旬と平年の7月上旬より早く、23℃以下になったのは10月第2半旬と平年の9月第4半旬よりも遅かった。また、8月第4半旬～8月第6半旬は最低気温も23℃以上となった。この影響からエサの食い込み量が減り、乳量の減少につながったほか、採草地では牧草の夏枯れ症状が多く確認された。



東北町の草地で確認された夏枯れ症状



ファンやミストによる暑熱対策

2 中部上北地域の水田農業推進に向けた取組

小川原湖周辺の土場川地区では、県南地方で最大規模となる484haのほ場整備が行われ、大区画ほ場の活用や農地集積が進んでいくことが期待されているが、整備された水田への高収益作物の導入が思うように進んでいないことから、県民局重点枠事業により、農道ほ場整備課と協力しながら軟弱地盤の克服やスマート農業導入に向けた取組を行った。

今年度は、北里大学、土場川地区内の生産者5戸、土場川土地改良区、JAゆうき青森、JA十和田おいらせ、東北町、七戸町、野菜研究所、県民局で構成する研究会を設立し、情報交換・情報共有を図った。また、土場川地区内2か所に、にんにく作付け実証ほを設置し、現地検討会を開催したほか、中泊町や岡山県笠岡市において、水稻作におけるスマート農業の取組、水田における野菜生産に係る取組事例を視察した。



研究会の様子(7/31)



実証ほでの現地検討会(11/16)

3 集落営農組織の収益性改善に向けた新たなチャレンジを支援

管内の集落営農組織は、担い手不足や収益の悪化等により6年間で6組織が解散・休止している。

そこで、上北地域県民局では集落営農組織の活性化を図るため、高収益作物の導入による収益向上や集落内のコミュニティビジネスの取組など、集落営農組織の収益性改善に向けた新たなチャレンジモデルの実証を支援している。

令和5年度は、農事組合法人オアシス市田、農事組合法人フラップあぐり北三沢、農事組合法人中矢営農組合が集落営農チャレンジモデル実証に取り組んだ。

今後は、これらのチャレンジで得られた成果を、管内の他の集落営農組織へ広めていく。



にんじんの試験栽培(10/13)



そばを活用した交流活動(11/23)

4 「共助・共存の農山漁村づくり」モデル集落の取組支援

共助・共存の農山漁村づくりに向けたモデル集落として、十和田市の一本松集落を選定し、集落住民が地域でいきいきと暮らしていく仕組みづくりを支援している。

これまで、集落住民の有志で高齢者の集いの場である「いきいきサロン」の開催や集落内の孤食防止、郷土料理の伝承の場として、お弁当や彼岸団子、鏡餅の受注販売を実施してきた。

今年度からは、集落住民の意志決定の場である「むらづくり会議」を核として、目的別に、地域支援（むらづくり実行隊）・農用地保全（農地保全隊）・地域資源活動（食堂一本松）の3つのグループに分かれて活動している。

これらの活動に加え、交流人口の拡大や多世代間の交流促進に向けた地域イベントを開催したほか、県内外の事例を視察するなど、共助・共存の取組を進めている。



農地保全隊のメンバー(7/8)



正月の鏡餅づくり(12/28)

5 水稲新品種「はれわたり」良食味安定生産に向けた取組

水稲新品種「はれわたり」は、令和5年2月時点で管内で約250haの作付が見込まれていた（農業普及振興室調べ）。「はれわたり」の良食味安定生産に向けて、管内に指導拠点ほを5地点（十和田市2地点、七戸町2地点、六戸町1地点）設置し、生育調査を行った結果、令和5年産の玄米収量は平均で661kg/10aと、前年収量を7%上回った。天候に恵まれ、生育が旺盛だったことによると考えられる。

また、生育調査結果をもとに、講習会で栽培農家に対し品種特性や栽培の留意点を周知したほか、関係機関一体となった技術対策を実施するため、成熟期の生育や刈取適期について、9月に現地検討会を開催した（十和田市及び六戸町）。

令和6年産についても、関係機関一丸となって、適期作業等の栽培指導を実施し、品種特性を踏まえた良食味安定生産に向けて支援していく。



「はれわたり」指導拠点ほ生育調査(6/19)



「はれわたり」現地検討会(9/8)

6 農協が中心となった稲WCS生産を支援

畜産農家は新規の自給飼料確保先として稲WCSに注目し、TMRセンターでは耕畜連携を進めるなど稲WCSの拡大を望む状況にあったことから、水稻農家が引き受けられなくなった田んぼを利用したJAゆうき青森の稲WCS生産の取組が始まった。JAゆうき青森ではTMRセンターだけでなく、個人の畜産農家、さらには育成牧場である酪農振興センターでの利用などの需要があると考え、今年約18haの取組から始めることとなった。

田植え前の水稻農家との打合せから始まり、収穫時期の調査、収穫された稲WCSの利用方法の指導など、JAゆうき青森と農業普及振興室は連携を図って支援してきた。

令和6年度は県の稲WCS専用品種「あおばまる」の試験栽培も予定しており、地域資源としての稲WCSの定着を支援していく。



適期刈取に向けた巡回（8/1）



8月中旬に収穫された稲WCS



畜産農家での利用をサポート

I 写真で見る今年度のトピックス

Ⅱ 表彰及び認定

1 令和5年度「全国優良経営体表彰」販売革新部門

全国担い手育成総合支援協議会会長賞受賞

おとべひでお
～おとべ農産合同会社（代表社員乙部英夫氏 東北町）～

農林水産省及び全国担い手育成総合支援協議会は、意欲と能力のある農業者の一層の経営発展を図るため、農業経営の改善や地域農業の振興・活性化に優れた功績を挙げた農業者を表彰している。この度、販売革新部門で東北町のおとべ農産合同会社が全国担い手育成総合支援協議会会長賞を受賞した。

おとべ農産合同会社は、ながいも栽培を経営の主力におき、4年1作とする計画的な輪作体系を確立して連作障害を防ぐとともに、化成肥料をなるべく施用せずに地力の維持を図っている。また、流通業者や農協と連携し、積極的な周辺農家への生産技術支援や販路拡大を図り、やまのいもの新品種である「ネバリスター」のブランド化や、契約栽培による加工用キャベツの産地化に取り組んでいる。

さらに、ロボットトラクタなどのスマート農機の導入や労務管理アプリの活用などによる徹底した生産・販売管理を進めるなど、販売の多角化や農業経営の合理化などにより農業経営を発展させたことが高く評価された。



おとべ農産の家族の方々（中央が乙部英夫氏）



キャベツの出荷



ロボットトラクタ（左側）を使用したながいも収穫作業



ネバリスターの出荷

2 農業経営士・青年農業士の認定

農業経営士は、優れた農業経営を実践し地域農業や農村生活のリーダーとして指導的役割を果たしている農業者を県知事が認定し、その指導活動の促進を図る制度である。上北管内では令和5年4月1日現在38名が活躍しており、今年度新たに2名が認定された。

青年農業士は、自ら農業及び集団活動に積極的に取り組み、将来とも地域農業の推進者となり得る模範的な農業青年を知事が認定し、その資質向上を図る制度である。上北管内では令和5年4月1日現在36名が活躍しており、今年度1名が認定期間満了（農業経営士に認定）となるとともに新たに5名が認定された。

(1) 農業経営士



竹ヶ原 直大（たけがはら なおひろ）氏

ア：十和田市

イ：水稲、大豆、小麦、牧草

ウ：青森県農業法人協会青年部長

エ：高齢化や後継者不足を背景に、手放される農地を可能な限り引受け、地域の農業や農地を守っていききたい。また、農業に対するイメージを変え、子どもたちが憧れる仕事にしていくため、できることは何でもチャレンジしたい。

ア：市町村

イ：経営内容

ウ：主な組織活動

エ：今後の目標



立花 友彦（たちはな ともひこ）氏

ア：おいらせ町

イ：ミニトマト、だいこん

ウ：おいらせ町農業士会副会長、おいらせ町認定農業者の会副会長

エ：会の人脈を生かした農地のマッチングを進めて農地の荒廃を防ぎたい。また、新規就農者の研修受入や障がい者の就労支援をとおして地域農業を盛り上げたい。自らの経営では、施設野菜と露地野菜、冬の農業などを組合せながら、効率的な農業経営を目指していきたい。

(2) 青年農業士



上明戸 好一（かみあきと よしかず）氏

ア：十和田市

イ：水稲、りんご、ブルーベリー

ウ：JA十和田おいらせ青年部副部長

エ：今後は稲作を中心に規模拡大を図っていききたい。また、後継者不足などの課題に対しては、遊休化する農地や施設を、新規就農者が活用しやすい仕組みを作っていくことが、解決策の一つとなると考えているので、意見交換をしていきたい。



小笠原 佳大（おがさわら よしひろ）氏

ア：東北町

イ：露地野菜（ながいも、ごぼう、にんじん）、水稻

ウ：東北町農業経営者会議理事、東北町教育委員会教育委員

エ：ながいもの契約栽培を柱にしながら、販路開拓やGAP取得に取り組んでいきたい。また、播種・定植前の契約栽培を増やし経営の安定化を図りたい。先輩や仲間の農業者と切磋琢磨しながら、地域農業と自らの経営発展を目指したい。



瀬川 悟志（せがわ さとし）氏

ア：東北町

イ：露地野菜（ながいも、ごぼう、にんにく）

ウ：東北町農業経営者会議副会長、上十地区4Hクラブ会長(H28)

エ：経営移譲を見据えて、経営全般への関わりを増やしていきたい。規模拡大に当たっては、契約栽培で販路を先に決めるなど、安定的な農業経営につなげたい。今後とも後輩に対しては、農業の分野のみならず自分が経験してきたことを伝えていきたい。



相内 奨（あいない すすむ）氏

ア：六ヶ所村

イ：露地野菜（だいこん、ごぼう、ながいも）

ウ：六ヶ所村青年農業経営者協議会会長（R3）

エ：高品質な作物を栽培できるよう努力していきたい。また、高齢者のリタイアが進む中で、地域の農地を効率的に管理するため、共同管理や若手農業者による法人設立なども選択肢として考えている。仲間とのコミュニケーションを大切にしながら地域農業を盛り上げていきたい。



藤嶋 佳祐（ふじしま けいすけ）氏

ア：六ヶ所村

イ：露地野菜（ながいも、ごぼう、にんにく）

ウ：六ヶ所村青年農業経営者協議会会長（R2）

エ：様々な組織活動にできる限り参加して、後輩に農業のあり方や楽しさを伝えていきたい。また、栽培技術の向上に向けて、日々努力していきたい。特にながいも栽培における有機質肥料の活用やドローン防除による省力化について、試験成果が得られた場合は、地域に波及させたい。

II 表彰及び認定

3 あおもり土づくりの匠の認定

「あおもり土づくりの匠」は、青森県において、健康な土づくりを牽引し、県内生産者の模範となる高度な土づくりに取り組む生産者を県知事が認定する制度である。令和5年度は管内から1名が認定され、当管内の認定者は合計で28名となった。



相坂 英輝（あいさか ひでき）氏

ア：おいらせ町

イ：キャベツ

ウ：土壌診断結果に基づく適正施肥、完熟堆肥の活用による健康な土づくりにより、キャベツの高品質安定生産に意欲的に取り組んでいる。また、地域資源の有効活用と化学肥料の削減に取り組み、健康な土づくりを基本とした環境にやさしい農業を実践している。

ア：市町村

イ：経営内容

ウ：主な取組

Ⅲ 普及指導活動の実績

1 令和5年度普及指導計画に基づく主な普及指導活動

(1) 栽培基本技術の徹底によるながいも産地力強化

(対象名 ① J A十和田おいらせ野菜振興会ながいも専門部会大深内支部 76名

② J A十和田おいらせながいも担い手育成塾生 34名)

【概要】

J Aやながいもの達人と連携した栽培講習会の実施により、ながいも栽培の基本技術の徹底を支援した。また、ながいもカルテの情報分析により収量・品質がJ A平均を下回っている農家を対象に、生産技術チェックシートを活用した個別指導を実施し、栽培管理の改善を促した。



切いも種子の調整・管理方法に係る講習会(3/17)

(講師：ながいもの達人)



切いも栽培実施者の個別巡回指導(5/16)



生産技術チェックシートを活用した個別指導(6/29)

【背景・課題】

- ・指導対象①のながいもの平均販売単収はJ A平均より高いが、A・B品率が低いため、基本技術の徹底による品質向上が必要である。
- ・指導対象②は産地をけん引していく生産者であるため、研修やながいもカルテに基づく指導により栽培技術の向上を図る必要がある。

【普及指導活動の内容】

- ・昨年度の大雨被害により種いもが不足している生産者を支援するため、ながいもの達人を講師とした切いも種子の調製・管理方法に係る講習会及び個別巡回指導を実施した。また、J A・普及が連携して実施した栽培講習会で、種子別の生育状況に応じた追肥、病虫害防除等の指導を行った。(指導対象①)
- ・ながいもカルテで収量・品質がJ A平均を下回った塾生に対し、生産技術チェックシートを活用して個別指導を実施した。(指導対象②)

【成果】

- ・切いもの適切な処理方法、温度管理や湿度管理、植付時の種の向き等、活発な質疑応答がなされ、切いも栽培への理解が深まった。(指導対象①)
- ・天候に応じた追肥や、効果的な病虫害防除方法について理解された。(指導対象①)
- ・個別指導の結果、排水対策や土壌診断、輪作体系、追肥時期・回数、種いも栽培における植付け時期や植付け深、種子ほ場への障壁作物導入等について改善するなど技術向上につながった。(指導対象②)

(関連事業：あおもりながいも産地力強化推進事業)

(2) ながいもの産地実態を踏まえた高品質安定生産による産地強化

(対象名 J Aおいらせやさい推進委員会長いも部会 192名)

【概要】

J Aと連携し、収量・品質が平均より低い生産者を主体に、個人カルテにより個別指導を行った。また栽培講習会や採種ほ巡回等の場で、種子ほ場の管理、強風雨等の災害に対応した栽培技術等、ながいも栽培の基本技術の指導を行った。



現地での栽培講習会 (7/14)



坪掘調査による品質確認 (11/9)

【背景・課題】

- ・ J Aおいらせ管内のながいも生産者の技術は全般的に高いが、収量・品質が低い生産者も見られるため、実態を踏まえた技術改善指導により、全体の高品質安定生産につなげる必要がある。
- ・ 種子生産についての関心は薄い傾向があり、指導活動を強化する必要がある。
- ・ 地力低下や過剰作付による収量・品質低下、強風雨等に対応した生産基盤とすることが重要となっている。また、土壌くん蒸剤ほか農薬の適正使用指導も必要である。

【普及指導活動の内容】

- ・ J Aおいらせ本店とともに技術改善指導を行う生産者を重点指導対象者として選定し、個人カルテを作成して個別指導を行った。
- ・ J Aが実施した、部会員に対する耕種実態の調査結果をもとに課題整理を行い、冬季営農講座等の場で調査結果を説明した。
- ・ 現地講習会や採種ほのウイルス感染株抜取作業等において、アブラムシ類を主体とした防除や隔離ほ場の設置等を指導した。
- ・ 生産基盤の強化策の一つとして、輪作体系、緑肥の生産を推進した。
- ・ 土壌消毒作業が行われる時期に、J A、三沢市と合同で現地ほ場の巡回指導を行った。

【成果】

- ・ 個別指導により、問題点が生産者毎に絞られ、効果的な理解につながった。
- ・ 採種ほにおけるアブラムシ類防除やウイルス感染株抜取り等の指導により、ウイルス病防除の重要性が理解された。
- ・ 災害に対応した技術指導の結果、大雨による穴落ちや表土流出、また強風による支柱、ネットの損壊等における事前及び事後対策の重要性への認識が深まった。
- ・ 緑肥を推進した結果、地力維持等の効果への理解が深まり、ソルゴー類、エンバク等の緑肥面積が拡大した。

(関連事業：あおもりながいも産地力強化推進事業)

(3) 大豆の安定生産と省力・低コスト技術の導入による収益性の向上

(対象名 集落営農組織 6 組織、大規模生産者 16 戸 計 22 経営体)

【概要】

生産情報の提供、栽培講習会の開催及び実証ほの設置により、適期作業と基本技術の徹底を支援したほか、大豆栽培技術改善策整理表の作成を通じて各経営体の課題を洗い出し、生産コストの低減や大豆の単収向上を目指した技術改善の取組を支援した。



整理票の作成支援 (9/17)



ほ場での現地指導 (8/2)



生産者座談会の開催 (2/19)

【背景・課題】

大豆の収量は年次変動が大きいことに加え、資材価格の高騰等により安定した所得の確保が難しいことが懸念された。そこで、経営体の実態に合った効果的な技術改善策の導入や使用資材の見直しを行い、大豆生産における生産性の向上を図る必要がある。

【普及指導活動の内容】

- ・生産情報紙「だいず通信」を発行し、生育調査結果に基づいた作業適期を細やかに情報発信し、基本技術の徹底や適期作業の実施を支援した。
- ・経営体ごとに大豆栽培技術改善策整理表を作成し、整理表に基づき、使用資材の見直しによる生産コストの低減や多発雑草に合わせた除草剤の使用、病虫害防除薬剤の効果的な使用による収量・品質の向上をはたらきかけた。
- ・JA十和田おいらせと連携した緩効性肥料の試験ほや、堆肥利用による大豆連作条件下での収量確保に向けた実証ほ、適正な栽植本数の確保による収量向上の実証ほを設置し、地域に合った栽培方法の確立に向けて取り組んだ。
- ・大豆座談会の開催により生産者間の情報共有の場を設け、改善策の導入効果や地域の課題を共有するとともに、大豆の安定生産に向けて前向きな意見交換が行われた。

【成果】

- ・生産情報紙「だいず通信」は経営体の作業計画の作成に役立てられ、使用薬剤や防除時期の見直しにより、栽培管理の適正化が図られた。
- ・19経営体が大豆栽培技術改善策整理表を作成し、うち12経営体が栽植本数の確保に向けたは種量の増加や使用資材の見直し、病虫害や雑草防除の適期作業などの課題解決に取り組んだ。その結果、経営コストの減少や収穫作業の効率化、虫害粒の減少等により単収が向上し、各経営体の生産性が向上した。

(4) 新規就農者の定着と経営管理能力の強化

(対象名 農業次世代人材投資資金受給者、青年等就農資金借入者等)

【概要】

新規就農者の知識・技術の向上を図るため、いきいきヤングファーマーゼミナールを開催し、栽培から経営まで幅広い知識・技術等の習得を支援するとともに、生産技術の不足等特に支援の必要性が高いと考えられた新規就農者を重点指導対象者とし、個々の課題に対応した支援を行った。また、農業次世代人材投資事業で実施する関係機関等とのサポート巡回をとおして、新規就農者に対する指導助言及び情報の共有を行った。



住友MGS事業所を視察(5/26)



農業経営士の取組を見学(8/2)



サポート巡回(東北町)(8/28)

【背景・課題】

新規就農者の多くは、農業に関する知識・技術が不足し、農産物の収量品質が不安定で、さらに経営感覚も身に付いていないことから、目標となる所得を確保できていない。このため、市町村段階でのサポート体制の充実・強化を図りながら新規就農者の生産技術や経営管理能力、資金管理能力の向上に対する支援を行っていくことが重要である。

【普及指導活動の内容】

- ・ヤングファーマーゼミナールにおいて、「農薬の種類や使用方法」、「土づくりや肥料計算」、「堆肥の基礎知識」などの営農基礎研修、「農作業事故の発生状況」、「小型農業機械の安全な使用とメンテナンス」などの農作業安全研修、「複式簿記の基礎」、「パソコンを活用した複式簿記の実践」などの経営研修を行った。さらに、にんにくの種苗生産会社や地域の青年農業士等の取組を見学し、情報交換を行う研修も実施した。
- ・重点指導対象者の病虫害防除や栽培管理等の課題について、室内の作物担当者や農協の営農指導員、農業経営士等の協力を得ながら解決を支援した。
- ・日本政策金融公庫と連携し、青年等就農資金の借入相談に対応したほか、借受希望者の経営改善資金計画の作成を支援した。

【成果】

- ・ヤングファーマーゼミナールの研修において実演展示や体験などを取り入れた研修を増やしたことにより、受講者の理解をより深められ、能力向上を図ることができた。
- ・課題解決に向けて取り組んだ新規就農者の多くが栽培技術等の向上を図ることができた。

(関連事業：新規就農者定着推進事業、新規就農者育成総合対策事業)

（５）次代に引き継ぐ上北集落営農活性化

（対象名 管内集落営農組織34組織）

【概要】

上北管内の集落と水田農業の維持発展のため、コアとなる集落営農組織の育成と横の連携を強化するとともに、チャレンジモデル実証による収益改善を図り、次世代につながる生産体制の強化、担い手育成による若い世代を巻き込んだ地域づくりを支援した。



活性化協議会での意見交換 (8/9)



オペレーター育成講習会 (10/27)

【背景・課題】

管内の集落営農組織は、担い手不足や収益の悪化等により 6 年間で 6 組織が解散している。

将来の集落営農について検討するとともに、新たなチャレンジモデルの構築及び役員後継者や新しいオペレーターの育成を図るなど、持続可能な組織体制づくりを支援することが重要となっている。

【普及指導活動の内容】

- ・集落営農組織間の連携を図るため、上北地域集落営農活性化協議会を設置した。
- ・先進事例調査や活性化セミナーを開催し、組織間連携に向けた効率的な運営体制を検討した。
- ・集落営農組織の収益性改善等に向け、高収益作物の導入など集落営農組織の新たなチャレンジに向けたモデル実証を支援した。
- ・新たなオペレーターを確保するため、農業用ドローンオペレーター育成講習会を開催した。

【成果】

- ・活性化協議会への参加を呼びかけたところ、17集落営農組織が参加する協議会が設立され、組織間の連携の可能性が話し合われた。
- ・モデル実証組織を公募したところ、3組織が取り組むことになり、実証に係る支援を行った。
- ・オペレーター育成講習会を開催し、新たな農業用ドローンオペレーターを5名育成した。

（関連事業：次代に引き継ぐ上北地域集落営農活性化事業）

2 普及関連組織の活動状況

(1) 農業士会

上北地域の農業士会は、十和田地区、三沢地区、野辺地地区の3地区があり、いずれも地域における農業者のリーダーとしての資質向上と担い手の育成、会員相互の親睦を目的として設立され、研修会の開催、営農大学校生や新規就農者の研修受入等を行っている。

ア 十和田地区農業士会

(ア) 冬期研修会

令和6年1月29日、営農管理システムについての研修会を開催し、11名が参加した。

(イ) 県連事業への参加

- a 令和5年7月28日に青森市で開催された県農林水産部長との意見交換会に、2名参加した。
- b 令和5年8月24日～25日に青森市ほかで開催された令和5年度東北・北海道地域農業士研究会に4名参加した。また、研究会の運営費補助のため、当日配付資料に掲載する賛助広告に、農業士会及び会員3名から協力があった。

(ウ) 営農大学校生、新規就農者等の研修受入実績

a 営農大学校農家実習（名誉農業経営士含む）

(a) 前期（令和5年6月7日～20日）の受入会員及び受入人数

高木 正義氏、山田 正氏 各1名

(b) 後期（令和5年8月31日～9月13日）の受入会員及び受入人数

寺澤 和夫氏、米田 拓実氏、米田 一典氏 各1名

b 農業普及振興室職員の農家派遣研修受入

(a) 6月・10月（延べ20日間）寺澤 和夫氏

(b) 6月・10月（延べ20日間）小田 正喜氏

c 青天農場の設置

設置：天間 正大氏、小田 正喜氏、米田 拓実氏

イ 三沢地区農業士会

(ア) 現地検討会の開催

令和5年9月15日においらせ町認定農業者の会と共催で開催し、会員15名（全体で25名の農業者）が参加した。

(イ) 冬期研修会

令和6年1月25日、三沢市内で農作業事故の防止対策についての研修会を開催した。

(ウ) 県連事業への参加、協力

- a 令和5年7月28日に青森市で開催された（株）マルタケでの現地検討会（9/15）



県農林水産部長との意見交換会に、1名参加した。

- b 令和5年8月24日～25日に青森市ほかで開催された令和5年度東北・北海道地域農業士研究会に5名参加した。また、研究会の運営費補助のため、当日配付資料に掲載する賛助広告に、会員7名(三沢地区全体で14名)から協力があった。

(エ) 営農大学校生、新規就農者の研修受入実績

- a 営農大学校農家実習 (名誉農業経営士含む)

(a) 前期 (令和5年6月7日～20日) の受入会員及び受入人数

濤岡 祥人氏 1名

(b) 後期 (令和5年8月31日～9月13日) の受入会員及び受入人数

合川 聡彦氏 1名、長根 一男氏 2名、浪岡 篤志氏 1名

- b 営農大学校あおもり農力向上シャトル研修

受入会員及び受入人数 立花 友彦氏 1名

- c 青天農場

設置：合川 聡彦氏、立花 友彦氏、浪岡 篤志氏

ウ 野辺地地区農業士会

(ア) 冬期研修会

令和6年2月14日、トヨタ式カイゼン手法についての研修会を開催し、15名が参加した。

(イ) 県連事業への参加・協力

- a 令和5年7月28日に青森市で開催された県農林水産部長との意見交換会に、1名参加した。



東北・北海道地域農業士研究会(8/25)

- b 令和5年8月24日～25日に青森市ほかで開催された令和5年度東北・北海道地域農業士研究会に1名参加するとともに、会員が代表を務める「おとべ農産合同会社」が現地研修を受け入れた。また、研究会の運営費補助のため、当日配付資料に掲載する賛助広告に、会員1名から協力があった。

(ウ) 新規就農者の研修受入実績

- a 青天農場の設置

設置 吹越 伸也氏、石久保 勇人氏

Ⅲ 普及指導活動の実績

(2) かみきたVIC・ウーマンの会

ア 農山漁村女性リーダー研修会及び活動交流会

(ア) 研修会

期 日	令和6年1月26日(金)
場所等	きざん三沢(三沢市) 26名参加
内 容	<p>【農山漁村女性リーダースキルアップセミナー】</p> <p>○講 話「女性や若者がいきいきと働ける環境づくり」 株式会社and more 代表取締役 久慈 美穂 氏</p> <p>○事例紹介「十和田市における農業後継者対策」 十和田市農業委員会 農地利用最適化推進委員 工藤 優美子 氏 (VIC・ウーマン：十和田市)</p>

(イ) 交流会

期 日	令和5年6月15日(木)
場所等	「あら、りんご。」青森ファクトリー(十和田市) 16名参加
内 容	<p>【かみきたVIC・ウーマンの会 活動交流会】</p> <p>○施設説明 「あら、りんご。」の取組について あら、りんご。青森ファクトリー マネージャー 伊藤 淑枝 氏</p> <p>○情報交換 「地区別の地域活性化活動について」</p>

イ 地区別の地域活性化活動

新規VIC・ウーマンの掘り起こしと女性リーダーとしてのスキルアップを目的に、4地区で研修会や交流会を実施した。(令和5年7月～12月、延べ4回34名)



活動交流会(6/15)



地区別の地域活性化活動(10/31)

(3) かみきた農と暮らしの研究会

ア 生活講座
(ア) 第1回

期 日	令和5年8月29日 (火)
場 所	シエスタハコダテ (北海道函館市) 他 15名参加
内 容	<p>【県外の発酵食に関する事例調査】</p> <p>○講 話 「ローカルレボリューションの取組」 ※北海道沖で穫れすぎたマイワシを発酵によってアンチョビに加工し商品開発した事例 講 師：ローカルレボリューション 代表 岡本 啓吾 氏</p> <p>○事例紹介 「発酵食の活用事例について」 紹介者：炭火割烹菊川 花板 菊池 隆大 氏</p> <p>「函館の発酵食「塩辛」の製造工程について見学」 場 所：小田島水産食品株式会社</p>

(イ) 第2回

期 日	令和5年12月21日 (木)
場所等	東コミュニティセンター (十和田市) 18名参加
内 容	<p>【郷土の味を伝え継ぐ「発酵料理と事業継承」講習会】</p> <p>○講 話 「事業継承とは ～継承事例や相続など～」 講師：公益財団法人21あおもり産業総合支援センター 野澤 昇 氏</p> <p>○実習及び情報交換 「発酵料理を学ぼう～麴及び甘酒の活用方法～」 講師：良庵 松本 圭央里 氏</p>



視察研修 (8/29)



生活講座 (12/21)

Ⅲ 普及指導活動の実績

(4) とわだグリーン・ツーリズム研究会

ア 農作業体験の受入

今年度は、にんにく及びとうもろこしの収穫体験や乗馬体験等の4つの体験プランと、長芋すいとんやなべこ団子など6つの出前講座について、体験受入PRちらしを作成し、管内18ヶ所へ配布した。

イ レベルアップ研修

期 日	令和5年11月30日（木）
場 所 等	弘前シードル工房「kimori」（弘前市）、農のふれカフェ「Green Note」 7名参加
内 容	【先進地事例研修】 ○取組紹介及び見学 「シードル作りに取組んだきっかけや、地域及び観光と連携した取組について」 紹介者：弘前シードル工房「kimori」 代表 高橋 哲史 氏 ○取組紹介及び体験 「地域食材を活用したランチの提供や体験受入等の取組について」 講師：農のふれカフェ「Green Note」 経営者 藤田 厚子 氏

ウ 活動検討会

期 日	令和6年3月1日（金）
場 所 等	ゆず亭（十和田市） 8名参加
内 容	・令和5年度の体験受入等の結果について ・令和6年度の活動計画について



弘前シードル工房「kimori」での取組紹介



農のふれカフェでの取組紹介及び体験

(5) 農村青少年クラブ

ア 上十地区4Hクラブ連絡協議会

(ア) 会員の構成 七戸町、東北町、六ヶ所村

(イ) 会員数 25名 (令和6年1月末現在)

(ウ) 主な活動

a 共同プロジェクト (1課題)

規格外ながいもを種子として利用したときの収量、品質及び規格について

b 個人プロジェクト (1課題)

ながいもの新しいも切断によるむかご増殖法

c ながいも等寄贈 令和6年2月24日、児童養護施設あけぼの学園

d ながいも販売研修

令和5年11月5～6日、東北町いきいき産業産業まつり

令和5年12月3日、ふじさき食彩テラス

e 上北地域青年農業者プロジェクト合同発表会でのプロジェクト発表

令和6年2月1日、きざん三沢

(オ) 県連行事への参加 青年農業者会議

令和6年2月15～16日、青森マエダアリーナ

(カ) 会議等の開催 令和5年度総会、役員会3回、全体会2回、三役会2回



共同プロジェクトながいもの収穫(12/11)



ふじさき食彩テラスでの販売会(12/3)

イ 三沢地区農村青少年クラブ連絡協議会

(ア) 会員の構成 三沢市、おいらせ町

(イ) 会員数 11名 (令和6年1月末現在)

(ウ) 主な活動

a 共同プロジェクト (1課題)

にんにくのフルボ酸資材施用時期による収量品質への効果の検討

b 個人プロジェクト (2課題)

・にんにくのリン酸施肥等による収量品質への効果の検討

・ながいもの1年子の形状が成いものに及ぼす影響の検討

Ⅲ 普及指導活動の実績

c 地域貢献活動

ハロウィンかぼちゃ寄贈

令和5年10月17日、いちい幼稚園 令和5年10月23日、織笠児童館

d 上北地域青年農業者プロジェクト合同発表会でのプロジェクト発表

令和6年2月1日、きざん三沢

(エ) 会議等の開催

令和5年度総会（書面決議）、定例会7回、三役会1回



共同プロジェクトにんにくの調査(4/24)



共同・個人プロジェクトにんにくの
収量調査後の検討(9/11)

ウ 十和田七戸4Hクラブ

(ア) 会員の構成 十和田市、七戸町

(イ) 会員数 9名（令和6年1月末現在）

(ウ) 主な活動

a 飲食店とのコラボ

プレゼンテーションディナーの開催（株式会社LOCO・SIKIと共催）

令和5年9月22日、365 THE GRILL

b あおもりマルシェへの参画 令和5年8月20日、青森市スポーツ公園

c 地域貢献活動

保育園への装飾用かぼちゃ寄贈 令和5年10月23日、榎林こども園

d 上北地域青年農業者プロジェクト合同発表会でのプロジェクト発表

令和6年2月1日、きざん三沢

(エ) 研修会への参加

ヤングファーマーゼミナール（延べ9名）

(オ) 会議等の開催 令和5年度総会、定例会4回、役員会2回



プレゼンテーションディナー(9/22)



あおもりマルシェでの販売(8/20)

3 普及情報の発行・発信

(1) かみきた楽農通信

管内生産者及び関係機関に対し、上北地域における普及指導活動を情報発信するため、情報紙を発行した。

○発行回数 2回 発行部数 延べ560部

発行月日	主 な 内 容
令和5年 5月2日 (第62号)	<ul style="list-style-type: none"> ・農業普及振興室長あいさつ、職員紹介 ・インボイス制度に関する改正 ・春の農作業安全運動展開 ・令和5年度 県民局事業の紹介 ・クロルピクリンの適正使用 ・農業経営士、青年農業士及びViC・ウーマン ・令和4年度における各種農業表彰
令和6年 1月18日 (第63号)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国担い手育成総合支援協議会会長賞（おとべ農産合同会社） ・令和5年度における農業普及振興室の主な活動 ・新たな土づくりの匠の紹介 ・新採用職員の活動PR ・農作業安全の啓発

(2) 上北農業生産情報

水稻、畑作、野菜等について定期的に生育調査し、それに基づく今後の栽培管理について迅速に関係機関・農家等へ情報提供することを目的に、農業生産情報を発行した。

○発行回数7回(4月～10月)

(3) インターネットサイトによる情報提供

地域農林水産部農業普及振興室サイトに農業技術等の情報を掲載した。

○ホームページ更新回数(延べ 36回)

コーナー名	主 な 内 容	更新回数
上北の 農林水産業	上北の農林水産業	1回
農業関係情報	半旬別気象図、上北農業生産情報、情報誌「かみきた楽農通信」、小麦・大豆の生産情報、上北いきいきヤングファーマーゼミナール、上北地域における農福連携の取組、上北地域のグリーン・ツーリズム、普及指導活動のまとめ ほか	27回
お知らせ	「令和5年度上北地域集落営農チャレンジモデル実証」実施者募集、「上北そば」を食べてみよう！作ってみよう！ほか	8回

Ⅲ 普及指導活動の実績

IV 令和5年度実施事業

1 農業普及振興室直営事業

(1) 持続可能な中部上北スタイル水田農業推進事業（県民局重点枠 R5～7）

※農村整備課予算

ア 事業目的

県南地方最大規模のほ場整備が実施されている小川原湖周辺の土場川地区において、軟弱地盤の克服やスマート農業の導入を図りながら、整備後のほ場への高収益作物の導入を進める。

イ 事業内容

(ア) 推進体制の整備

北里大学、土場川地区内の生産者5戸、土場川土地改良区、JAゆうき青森、JA十和田おいらせ、七戸町、東北町、青森県産業技術センター野菜研究所、県民局で構成する「中部上北地域水田農業研究会」を設立し、情報交換・情報共有を図った。

(7/31、20名)

(イ) 排水対策を講じた水田への野菜作付け実証

土場川地区内2か所（七戸町、東北町各1か所）に、にんにく作付け実証ほを設置し、現地検討会を開催した。(11/16)

(ウ) スマート農業の導入等支援

水田農業におけるスマート農業や水田への高収益作物導入の取組の県内・県外の先進事例について調査を実施した。

日時・場所	人数	内容
8月18日 中泊町	11名	<ul style="list-style-type: none"> ・とうもろこしへのドローンによる農薬散布 ・ブロッコリーでの耕うん同時畝立て作業 ・水田での自動給水装置の活用状況
12月21日 岡山県 笠岡市・矢掛町	2名	<ul style="list-style-type: none"> ・水田での加工業務用たまねぎ、キャベツ栽培及びスマート農業への取組 ・地下水位制御システムの導入活用状況



中泊町での事例調査 (8/18)



実証ほでの検討会 (11/16)

(2) 次代に引き継ぐ上北地域集落営農活性化事業（県民局重点枠 R5～6）

ア 事業目的

上北管内の集落営農組織を活性化し、地域の農業を守るため、コアとなる集落営農組織の育成と横の連携を強化し、収益性改善に向けたモデル構築及び次世代の担い手を育成する。

イ 事業内容

(ア) 上北地域集落営農活性化協議会

a 管内組織のネットワーク形成

集落営農組織間の連携を図るため、上北地域集落営農活性化協議会を設置し、集落営農組織同士の意見交換を行った。(8/9、30名 2/27、24名)

b 先進事例調査

集落営農法人の法人間連携が進められている山口県の事例について、集落営農組織の代表者2名と合同で調査を行い、集落営農法人連合体の設立による連携の取組について知見を得た。(8/28～30)

c 上北地域集落営農活性化セミナー

県内で集落営農組織間の連携に取り組んでいる(株)アグライズ外ヶ浜を講師に、集落営農組織間連携の手法について紹介した。(8/9、30名)

d 集落の活性化に向けた検討会

東北町才市田集落において、(農)才市田と才市田転作組合の構成員を参集し、集落の活性化について話し合いを行った。(2/8、8名)

(イ) 集落営農活性化に向けたチャレンジモデル実証

集落営農組織の収益性改善等に向け、高収益作物の導入など集落営農組織の新たなチャレンジに向けたモデル実証を支援した。

- ・(農)才市田：にんじんの導入による収益向上
- ・(農)フラップあぐり北三沢：だいこんの有利販売に向けた現地調査
- ・(農)中矢営農組合：交流活動によるそばの認知度向上

(ウ) 次世代の担い手づくりの支援

集落営農組織の将来を担うリーダーを育成するため、集落営農組織を取り巻く環境等について、若手構成員向けの研修会を開催した。(12/22、7名)

新たなオペレーターの確保に向け、農業用ドローンオペレーター育成講習会を開催した。(10/20～27、5名)



山口県先進事例調査(8/28～30)



上北地域集落営農活性化セミナー(8/9)

(3) 地域農業を支える普及活動推進事業 (県単 H30~)**ア 事業目的**

高度化・多様化する農業経営や労働力不足に対応するため、農業経営の安定化、先端技術の普及、女性の経営参画を推進する総合的な普及活動を展開する。

イ 事業区分及びその内容

区 分	対 象	事業内容
多様化・高度化する農業経営に対応した経営安定化普及活動	認定農業者等	1 農業簿記指導 (1) 時期：12月、1月、2月 (2) 内容：パソコン複式簿記研修会 (3) 参加者：延べ37名 2 経営分析・診断研修会等の開催 (1) 時期：3月 (2) 内容：複式簿記記帳結果の分析・診断 (3) 参加者：12名 3 個別農業経営相談の実施 (1) 時期：随時開催 (2) 内容：農業経営改善計画作成支援 (3) 対象：124経営体(令和5年12月末現在) 4 営農情報誌の発行 (1) かみきた楽農通信 第62号(令和5年5月2日発行) 第63号(令和6年1月18日発行)
農山漁村女性の経営参画推進普及活動	V i C・ウーマン及び女性組織リーダー等	1 女性の経営・社会参画セミナーの開催 (1) 期日：令和6年1月26日 (2) 場所：きざん三沢(三沢市) (3) 内容：農山漁村女性リーダースキルアップセミナー(講師)(株) and more(代)久慈美穂氏 (4) 参加者：26名 2 農山漁村女性活動担当者会議の開催 (1) 日程：令和5年7月13日～26日うち7日 (2) 方法：管内各市町村及びJAを巡回 (3) 内容：農山漁村女性活動支援事業等の情報共有 (4) 出席者：管内市町村及びJA担当者16名 3 V i C・ウーマン候補者の掘り起こし 今年度は認定まで至らなかった。 4 家族経営協定の推進 十和田市2戸、三沢市1戸、東北町2戸

(4) 農山漁村女性起業課題解決・活躍促進事業 (国庫 R5～7)

ア 事業目的

女性の視点を生かした起業活動を支援し、農山漁村女性の活躍を推進するとともに、次世代を担う女性起業家の育成と地域活動等の発展を図る。

イ 事業内容

(ア) 女性起業講座「基礎編」の開催

- a 期 日：令和6年1月30日（火）
- b 場 所：(地独) 青森県産業技術センター 農産物加工研究所
- c 参加人数：38名
- d 内 容：

○講義「漬物の製造販売に向けて必要なこと」

- ・漬物製造業の許可について
- ・その他の注意すべき営業許可や届出等について

講師 上北地域県民局地域健康福祉部生活衛生課 主幹 山口 克志 氏

○講義「漬物の製造工程ごとに必要な衛生管理」

- ・漬物の食中毒の防止や日持ちを向上させる殺菌方法について
- ・殺菌方法について（見学）

講師 (地独) 青森県産業技術センター農産物加工研究所
研究員 加川 柚子 氏 研究員 葛西 希 氏



講座のテーマは「漬物」



漬物製造業や衛生管理について講義



参加者から多数の質問



殺菌方法について見学

(5) 農福の輪を広げる人財育成推進事業（国庫 R4～6）

ア 事業目的

農業者等に対し、農福連携に踏み出しやすい環境整備と理解促進に向けた取組を進めるとともに、多様な人財育成により取組の輪の拡大を図る。

イ 事業内容

- (ア) 農協組合員を対象としたチャレンジ農福の実施支援
福祉事業所を利用している障がい者及び施設職員で構成する農作業ユニットと農協組合員をマッチングし、障がい者が農作業に従事する「チャレンジ農福」を、農協への業務委託により実施した。

(管内3農協、実施件数 10件)



ごぼうの袋詰作業の見学(12/6)

- (イ) 上北地域農福連携現地検討会の開催

チャレンジ農福の取組内容や農福連携について農業者等に広く紹介するとともに、農福連携の取組を推進することを目的に、農業者や福祉事業所職員等を対象とした現地検討会を開催した。(12月6日、チャレンジ農福の取組状況の見学及び意見交換、参加者25名)

- (ウ) 上北地域農福連携推進連絡会議の開催

関係機関の連携を強化して今後の取組を円滑に進めるため、連絡会議を開催し、本年度の取組状況や今後の取組について情報共有を図った。(1月31日、20名)

(6) あおもりの「食」を育む食育県民運動推進事業（国庫・県単 H29～R5）

ア 事業目的

第4次青森県食育推進計画（令和3年度～令和7年度）の目標である「健康で活力に満ちた『くらし』と持続可能な『食』の実現」に向け、食育県民運動の一層の充実を図る。

イ 事業内容

上北地域における食育の推進を図るため、上北地域食育ネットワーク協議会委員等を対象に、青森県における「食品ロス」に関する取組（県環境生活部環境政策課 工藤主査）と、「エシカル消費」で未来を変えるプロジェクト事業（青森県消費生活センター 増田教育啓発課長、県環境生活部県民生活文化課 鈴木主査）について



研修会の様子(11/29)

話題提供があり、食を取り巻く諸問題に対して理解が深まった。また、意見交換会では、各関係機関から今年度の活動内容についての紹介や質疑応答があり、今後の食育活動への意識が高まった。(11月29日、16名)

(7) 放射性物質モニタリング調査（県単 H24～R7）**ア 事業目的**

平成24年4月1日から、食品中の放射性物質の基準値（厚生労働省）が変わったことに対応し、管内主要農林産物の放射性物質モニタリング調査を実施し、その安全性を確認する。

イ 令和5年度実施結果（上北地域県民局地域農林水産部担当分）

今年度は玄米4点、ながいも5点、原木しいたけ1点、野生きのこ類1点で放射性物質モニタリング調査を行ったが、いずれも基準値を超える放射性セシウムは検出されなかった。

(ア) 調査実績

分類	品目数	件数	品目名	検査結果	
				放射性セシウム 134 (Bq/kg)	放射性セシウム 137 (Bq/kg)
穀類	1	4	玄米	検出されず (<5.0)	検出されず (<5.0)
野菜	1	5	ながいも	検出されず (<5.0)	検出されず (<5.0)
林産物	2	2	原木しいたけ	検出されず (<5.0)	18.0 ※
			野生きのこ類	検出されず (<5.0)	検出されず (<5.0)
計	4	11			

※基準値（100Bq/kg）を下回っているため、問題なし

(8) 青森県特別栽培農産物認証制度（県単 H11～）**ア 制度概要**

国の「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」、「青森県特別栽培農産物認証要綱」に基づき、農薬や化学肥料を使用しない、又は、通常の5割以下に減らして生産した農産物を「青森県特別栽培農産物」として認証している。

イ 認証実績

市町村名	品目	認証数 (件)	生産者 (人)	ほ場面積 (a)	認証 区分
十和田市	水稲、大豆、黒豆、小豆、 にんにく、ながいも	9	9	336	A : 4 E : 1 F : 4
七戸町	水稲、にんにく、アピオス	4	28	2,807	A : 1 F : 3
東北町	にんにく	1	1	20	A : 1
横浜町	なたね	1	1	50	A : 1
おいらせ町	えごま、アピオス	2	3	76	A : 2
合 計		17	42	3,289	A : 9 E : 1 F : 7

- 認証区分：**A** 農不・化不（農薬不使用・化学肥料不使用）
B 農不・化5（農薬不使用・化学肥料5割以下）
C 節農不・化不（節減対象農薬不使用・化学肥料不使用）
D 節農不・化5（節減対象農薬不使用・化学肥料5割以下）
E 節農5・化不（節減対象農薬5割以下・化学肥料不使用）
F 節農5・化5（節減対象農薬5割以下・化学肥料5割以下）

(9) 新規就農者定着推進事業（県単 H28～R5）**ア 事業目的**

新規就農者や若手農業者を対象とした農業の基礎的な知識・技術に係る研修会や相談会の開催により、意欲ある多様な人財を農業の担い手として育成する。

イ 「上北地域いきいきヤングファーマーゼミナール」（資質向上支援活動）

期 日	研修名及び内容	講 師	参加人数
令和5年 5月26日	視察研修	・住化テクノサービス(株)MGS事業所 山本 麻美 氏 ・(地独)青森県産業技術センター 野菜研究所 今 智穂美 氏	12名
6月7日 6月8日	営農基礎研修 (農薬の使用方法)	・農業普及振興室 成田主幹、 中島技師	2か所計 8名
6月15日 6月16日	営農基礎研修 (土づくり)	・農業普及振興室 伊藤主幹、 中島技師	2か所計 8名
8月1日	上北地域の先輩農業者研修	・青年農業士 立花 友彦氏 ・青年農業士 後村 賢太氏	9名
9月11日	農作業安全研修	・農業普及振興室 斗ヶ澤総括主幹 ・ヤンマーアグリジャパン(株)社員 ・やまびこジャパン(株)社員	6名
11月9日	若手農業者視察研修	・(株)よしだや 吉田 清香氏 ・カマラードの家 川岸 健氏 ・青年農業士 春 義彦氏	14名
11月24日	営農基礎研修 (堆肥の基礎知識)	・下北地域県民局地域農林水産部 畜産課 植田主幹専門員	7名
12月5日 ～6日	農業経営研修 (複式簿記の基礎)	・農業普及振興室 片山主幹	延べ15名
12月27日	農業経営研修 (パソコン複式簿記の基礎)	・農業普及振興室 片山主幹、 斗ヶ澤総括主幹	2名
令和6年 1月11日 ～23日 2月13日 14日 3月4日 5日	農業経営研修 (パソコン複式簿記の実践)	・農業普及振興室 片山主幹、 斗ヶ澤総括主幹	延べ18名
1月15日 ～19日	農業経営相談会（個別相談）	・農業普及振興室 若山技師、 片山主幹	10名

(10) あおもり新農業人サポート事業（県単 R4～R6）**ア 非農家出身者再チャレンジ支援事業****(ア) 事業目的**

農業次世代人材投資事業の支援を受けている就農3～6年目の非農家出身の新規就農者に対し、経営改善に向けた取組を補助事業により支援

（補助率1／2以内、上限100万円）

(イ) 事業内容

市町村	採択件数	事業内容	事業費（円）	補助金額（円）
十和田市	2件	プレハブ冷蔵庫等の導入	1,259,364	629,000
		にんじん洗浄機の導入	167,000	83,000
七戸町	1件	ハーフソイラ等の導入	510,000	255,000
計	3件		1,936,364	967,000

イ 青森県新規就農メンター制度**(ア) 事業目的**

優れた農業経営を実践している非農家出身の農業者をメンターに認定し、課題を抱える非農家出身の就農希望者等に派遣して実践的なアドバイスをすることで、早期の経営安定化を図る。

(イ) メンター認定者

認定者	市町村	経営品目
佐藤 和文	七戸町	にんにく、にんにく加工
本間 雅也	七戸町	トマト、ミニトマト
中村 巧	東北町	ハーブ、にんにく他

ウ 若手農業トップランナーの育成強化**(ア) 事業目的**

意欲的な若手農業者を対象に、柔軟な発想と大胆な行動力、経営会計力やマーケティング力を持ち、本県農業の新たなステージを切り開き、果敢に農業にチャレンジする「若手農業トップランナー」を育成する。

(イ) 上北管内における塾生の状況

「若手農業トップランナー」の育成を目的に開講している「若手農業トップランナー塾」に、平成20年から令和4年度までに当管内から35名が参加しており、今年度、当管内から4名がトップランナー塾に参加した。

IV 令和5年度実施事業

(ウ) 研修等への参加状況

期 日	内 容
令和5年5月22日	開講式・特別講演会
7月10～11日	第2回セミナー 内容：体験型経営術習得研修（マネジメントゲーム）
8月23～24日	第16回アグリフードEXPO東京（1名）
7月～10月	あおもりマルシェ（2名）
10月10日、12日	巡回訪問
10月27～29日 11月20～22日	県外視察研修（北海道1名、岐阜県1名）
11月28日	県内視察研修（青森市、弘前市、藤崎町 1名）
令和6年2月2日	第3回セミナー 内容：農産物マーケティングの基礎、SNSを活用した情報発信
2月19日	レベルアップコースセミナー 内容：阿部梨園の経営改善事例報告～知恵袋プロジェクト～ ほか
3月5日	第4回セミナー（レベルアップコースセミナー） 内容：日本一の観光農園になるための戦略と戦術、変化に対応しながら儲かる事業を育てるノウハウ
3月27日	成果発表会・閉講式

(11) 青森県型地域共生社会の実現に向けた地域経営確立事業（県単 R3～5）

青森県型地域共生社会の実現に向け、地域経営体のレベルアップを図る取組を支援するとともに、「地域経営」の仕組みに向けたモデル集落の育成に取り組む。

ア 地域貢献型マネジメント定着事業

地域経営の仕組みづくりのため、市町村単位で開催されるマネジメント部会において、地域の課題の検証及び解決に必要な取組を支援する。

事業主体	主な事業内容	補助金額（円）
十和田市地域農業再生協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・農福連携の取組に関する現状と課題、及び推進体制についての意見交換 ・農業の担い手育成に関する意見交換 ・共助・共存の農山漁村モデル集落の育成 	585,000
横浜町地域農業再生協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経営体（道の駅よこはま）の販売力向上に関する取組と意見交換 ・県外における産直施設の先進事例調査 	963,640
合 計		1,548,640

イ 地域貢献型経営体レベルアップ推進事業

地域経営体が主体となった地域貢献の取組及びそれに向けた経営発展の取組を支援する。

事業主体	主な事業内容	補助金額（円）
ひまわり工房 （十和田市）	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ食堂で実施する弁当の配食や彼岸だんごの受注生産に関する作業の効率化 ・提供するメニュー内容を充実させるための講座の実施及び資材の購入 	936,270
一般社団法人 日々木の森 （十和田市）	<ul style="list-style-type: none"> ・加工用及び農作業用機械の導入による作業の効率化 ・加工品に添付するリーフレット等の作成による取組のPR 	1,284,909
合 計		2,221,179

ウ 中間支援組織支援型モデル集落育成事業（NPO法人ひろだいリサーチへ委託）

地域経営体、自治会、社会福祉団体など幅広い関係者が連携を図り、農林水産業の振興のほか、コミュニティ機能の維持・創出に向けた地域課題の解決に向けて自ら活動する集落の育成に取り組む。

モデル集落名	主な取組内容
一本松集落 （十和田市）	<ul style="list-style-type: none"> ・むらづくりビジョンの推進 ・コミュニティ食堂の運営基盤の整備 ・地域住民、地域から離れて暮らす子供たちに向けた情報発信 ・集落内の田畑の維持管理

(12) 農山漁村女性が伝え継ぐ青森の食と技魅力創造事業（国庫R4～5）

ア 事業目的

本県の郷土料理等について、作り手である農山漁村女性の技術、事業の継承を推進する。また、「食」を生かした地域の課題解決に取り組み、地域共生社会の実現を目指す。

イ 事業内容

(ア) 食文化・事業継承の推進

- a 郷土の味を伝え継ぐ「漬物」講習会

期 日：令和5年9月1日（金）
場 所：十和田市東コミュニティセンター
参加人数：18名

内 容：「夏野菜を活用した漬物の作り方」（実習及び情報交換）

講師 十和田市 青木 安子 氏

- b 郷土の味を伝え継ぐ「発酵料理と事業継承」講習会

期 日：令和5年12月21日（木）
場 所：十和田市東コミュニティセンター
参加人数：31名

内 容：

- 「事業継承とは～継承事例や相続など～」

講師 公益財団法人21あおもり産業総合支援センター
青森県事業承継・引継ぎ支援センター

総括責任者 野澤 昇 氏 / エリアコーディネーター 吉田 直志 氏

- 「発酵料理を学ぼう～糀及び甘酒の活用方法～」（実習及び情報交換）

講師 良庵 松本 圭央里 氏

(イ) 食に着目した地域共生社会につながる地域活動のモデル実証

- a 実証者：おいらせ町 柏崎 幸子 氏

- b 実証内容：子育て家族を対象とした農業体験等交流会の開催

郷土料理等を活用した高齢者のコミュニティ活動の充実

- c 連携先：木内々町内会、おいらせ町社会福祉協議会、さつき生活研究グループ

- d 成 果：

子育て家族を対象に、地域住民にも声がけし、落花生や里芋など野菜の収穫及び味噌づくりの体験交流会を開催した結果、地域の高齢者から野菜の食べ方や味噌づくりのコツなどを学び、子育て家族間の交流だけでなく、これまであまり交流する機会がなかった子育て家族と高齢者との交流も図ることができた。

また、高齢者いきいきサロンの参加者や地区の高齢者等を対象に、郷土菓子のかますもちや豆しとぎの体験交流会を開催し、高齢者間の交流を深めたことで、これまでいきいきサロンに参加していなかった高齢者から参加を希望する声があるなど、高齢者の生きがいや楽しみを増やすことが出来た。



漬物講習会での技術指導(9/1)



事業継承に関する講話(12/21)

(13) 指定種子検査事業 (県単 H30～)**ア 水稻**

(ア) 事業主体 十和田市水稻採種組合

(イ) 事業実施内容

a ほ場審査結果

第1期 (出穂期) : 8月3日

第2期 (糊熟期) : 8月31日

【品種別ほ場指定面積】

(単位 : a、筆)

品種名	指定面積	指定ほ場数	合格面積	合格ほ場数
まっしぐら(原種)	137	5	137	5
まっしぐら	6,301	226	6,301	226
ゆたかまる	3,883	109	3,853	108
えみゆたか	543	11	543	11
あさゆき	190	5	191	5
計	11,054	355	11,024	355

合格率は99.7%。

異品種混入により30aが不合格となった。

b 生産物審査結果

【生産物審査数量及び発芽試験結果】

(単位 : 点数、%、kg)

品種名	審査サンプル数	合格サンプル数	不合格サンプル数	平均発芽率	種子生産数量
まっしぐら(原種)	2	2	0	96	7,400
まっしぐら	44	44	0	97	371,600
ゆたかまる	25	25	0	97	225,400
えみゆたか	4	4	0	97	32,000
あさゆき	2	2	0	94	11,200
計	77	77	0	—	647,600

合格率は100%。発芽は良好であった。

イ 大豆

(ア) 事業主体 農事組合法人 赤沼営農組合

(イ) 事業実施内容

a ほ場審査結果

第1期 (開花期) : 8月3日

第2期 (成熟期) : 10月12、16、18、19、23、25、27、30日、11月1、6日

【品種別ほ場指定面積】

(単位 : a、筆)

品種名	指定面積	指定ほ場数	合格面積	合格ほ場数
おおすず	2,127	89	1,995	84

合格率は93.8%。

雑草、生育不良、生育ムラ、青立ちにより132aが不合格となった。

IV 令和5年度実施事業

b 生産物審査結果

【生産物審査数量及び発芽試験結果】 (単位：点数、%、kg)

品種名	審査サンプル数	合格サンプル数	不合格サンプル数	平均発芽率	種子生産数量
おおすず	28	28	0	99	25,770

合格率は100%。発芽は良好であった。

ウ 小麦

(ア) 事業主体 農事組合法人 赤沼営農組合

(イ) 事業実施内容

a ほ場審査結果

第1期(出穂期)：5月22日 第2期(糊熟期)：6月23、28日

【品種別ほ場指定面積】 (単位：a、筆)

品種名	指定面積	指定ほ場数	合格面積	合格ほ場数
ネバリゴシ	1,056	35	935	32(一部合格も含む)

合格率は88.5%。

雑草、登熟ムラにより121aが不合格となった。

b 生産物審査結果

【生産物審査数量及び発芽試験結果】 (単位：点数、%、kg)

品種名	審査サンプル数	合格サンプル数	不合格サンプル数	平均発芽率	種子生産数量
ネバリゴシ	29	29	0	93	21,600

合格率は100%。発芽は良好であった。

2 補助金・交付金事業

(1) 青森県農林水産関連原油・原材料価格高騰等対策事業（県単 R4繰越）

ア 事業目的

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響の長期化や原油・原材料価格の高騰等に対応し、農林水産事業者に対する経営の継続・発展への支援及び輸入代替作物等を安定供給できる体制整備を支援するため、省力・低コスト技術導入や経営規模拡大などに必要な機械・設備の導入に要する経費について補助金を交付する。

※ 令和4年度予算の明許繰越により令和5年度に事業実施

イ 補助率 県1/2以内（補助上限額：8,000千円）

ウ 事業内容

(ア) 農産物の省エネルギー、省力・低コスト技術導入タイプ

経営に係る経費を抑え、経営の継続・発展を図るために必要となる農業機械・設備導入に対する支援

(イ) 経営規模拡大タイプ

経営規模拡大による低コスト・省力化を図るために必要となる農業機械・設備導入に対する支援

(単位：件、千円)

事業タイプ	件数	事業費(税抜)	補助金額	主な補助対象機械・設備
農産物の省エネルギー、省力・低コスト技術導入タイプ	5	23,963	11,906	トラクター、トレンチャー、にんにく収穫機など
経営規模拡大タイプ	7	39,003	19,130	トラクター、大根収穫機、米乾燥機、ハイクリブームなど
合計	12	62,966	31,036	

(2) 青森県農林水産関連物価高騰等対策事業（県単 R5）**ア 事業目的**

新型コロナウイルス感染症の影響の長期化や原油をはじめとしたエネルギー・原材料価格の高騰等に対応し、経営の継続・発展に取り組む農林水産事業者を支援するため、集出荷貯蔵施設等における設備のほか、スマート農業機械等の導入に要する経費について補助金を交付する。

イ 補助率 県1/2以内（事業タイプ別に補助金額上限あり）

ウ 事業内容（農業普及振興室担当のみ記載）**(ア) 施設設備等支援タイプ**

集出荷貯蔵施設や加工処理施設等における経営コストの低減を図るために行う設備等の更新や導入、改修等に要する経費を支援

(イ) 肥料コスト低減支援タイプ

土壌・堆肥分析機器導入のほか、肥料コスト低減の取組定着に必要となる機械・設備の導入や施設の改修等を支援

(ウ) 施設園芸等支援タイプ

施設園芸の経営の継続・発展を図るために必要となるパイプハウス・設備等の導入を支援

(エ) スマート農業機械等導入支援タイプ

低コスト・省力化に取り組むために必要となる農業機械等の導入を支援

事業実施件数

(件、千円)

事業タイプ	件数	事業費(税抜)	補助金額	主な補助対象機械・設備
施設設備等支援タイプ	38	375,441	187,765	だいこん等洗浄機、選別機、冷蔵設備、LED設備 等
肥料コスト低減支援タイプ	14	146,075	73,037	堆肥散布機、ホイルローダー 等
施設園芸等支援タイプ	5	40,215	18,856	パイプハウス、水耕栽培設備、いちご高設栽培設備 等
スマート農業機械等導入支援タイプ	75	682,622	341,104	直進アシストトラクター・田植機、自動操舵システム、ドローン、水田水管理システム 等
合計	132	1,244,353	620,762	

注) 令和6年2月末現在、千円以下端数切り上げ処理のため合計値が一致しない。

4次採択者の令和6年度交付決定予定者を含む。

(3) 青森県野菜等産地力強化支援事業（県単 H30～R5）**ア 事業目的**

野菜等産地の所得向上と産地力の強化を図るため、省力化等に必要な施設・機械、施設園芸の振興に必要なパイプハウスの導入を支援する。

イ 事業内容

(単位：千円)

市町村名	事業実施 主体	対象農作物	事業内容	事業量	事業費	負担区分		
						県	市町村	その他
三沢市	認定農業者	ごぼう	スタブルカルチ	1台	770	175	0	595
	認定農業者	ごぼう	茎葉処理機	1台	638	145	0	493
	認定農業者	にんにく	畝立てマルチロータリー式	1台	1,100	250	0	850
	認定農業者	にんにく	収穫機	1台	3,080	700	0	2,380
	認定農業者	にんにく	収穫機	1台	3,080	700	0	2,380
	認定農業者	ながいも	運搬台車	1台	1,529	347	0	1,182
	認定農業者	ながいも	植付機	1台	616	140	0	476
おいらせ 町	農業法人	だいこん、 にんじん	防除機	1台	6,300	1,431	0	4,869
	農業法人	だいこん	仕分機	1台	2,365	537	0	1,828
合計				9台	19,478	4,425	0	15,053

注) 令和6年2月末現在（千円以下切り捨てで記入）

事業費及びその他の額は、千円以下の端数により合計額と一致しない場合がある。

(4) 環境保全型農業直接支払交付金（国庫 R2～6）

地球温暖化防止や生物多様性保全に積極的に貢献していくため、環境保全に効果の高い営農活動を普及推進する。

ア 環境保全型農業直接支払交付金（定額）

自然環境の保全に資する農業の生産方式を導入した農業生産活動の実施に取り組む農業者団体に対し、取組面積に応じて交付金を交付する。

<取組状況>

市町村	対象となる営農活動	件数	面積(a)	事業費(円)	備考
十和田市	有機農業	2	1,005	1,206,000	国1/2以内 県1/4以内 市町村1/4 以内
三沢市	カバークロップ、 有機農業	2	2,369	1,461,600	
七戸町	有機農業	2	3,596	1,260,600	
おいらせ町	カバークロップ、 有機農業	1	1,745	1,947,600	
計		7	8,716	5,876,400	

イ 環境保全型農業直接支払推進交付金（定額）

市町村が実施する確認事務などに係る経費に対して交付する。

（令和5年度は実施なし）

(5) 農業委員会交付金等（国庫 S60～）**ア 事業目的**

農地利用の最適化等を推進するため、農業委員会が活動する経費について農業委員会交付金等を交付する。

イ 事業内容**(ア) 交付金の区分**

- a 農業委員会交付金（S60～）
農業委員会職員給与、農業委員等の月例報酬に係る経費
- b 農地利用最適化交付金（H28～）
最適化活動を行う推進委員等の報酬に係る経費、農業委員会が行う最適化活動に必要な物品購入等に係る経費
- c 農地法等事務適正実施支援事業費補助金（H26～）
農業委員会の必須業務に必要な物品購入等に係る経費
- d 農地有効利用支援事業費補助金（H26～）
農業委員等の資質向上に係る研修会等旅費、参考図書等購入に係る経費

(イ) 事業費・交付金額

(単位：千円)

事業実施主体	事業区分	事業費	うち交付金等	事業実施主体	事業区分	事業費	うち交付金等
十和田市 農業委員会	a	58,472	6,857	横浜町 農業委員会	a	13,657	1,511
	b	6,663	6,663		b	4,643	1,759
	c	149	149		c	1,308	1,021
	d	194	194		d	127	12
三沢市 農業委員会	a	7,970	2,294	東北町 農業委員会	a	22,656	3,303
	b	3,716	3,518		b	718	656
	c	2,057	953		c	68	47
	d	472	201		d	98	32
野辺地町 農業委員会	a	2,485	1,205	六ヶ所村 農業委員会	a	4,166	2,500
	b	4,400	4,400		b	2,167	2,167
	c	114	81		c	—	—
	d	8	7		d	—	—
七戸町 農業委員会	a	25,031	3,645	おいらせ町 農業委員会	a	18,363	2,317
	b	1,356	1,259		b	1,264	1,234
	c	1,453	560		c	512	366
	d	37	7		d	—	—
六戸町 農業委員会	a	6,114	2,634	計	a	158,914	26,266
	b	22,879	6,841		b	47,806	28,497
	c	—	—		c	5,661	3,177
	d	176	102		d	1,112	555

注) 事業費、交付金等は令和6年2月末現在の実績見込額、—は未実施。

(6) 新規就農者育成総合対策事業 (国庫 R4~R8)**ア 事業目的**

農業への人材の一層の呼び込みと定着を図ることを目的に、経営発展のための機械・施設等の導入を支援するとともに、経営が不安定な就農直後の所得を確保するための資金を交付する。

イ 事業内容**(ア) 経営発展支援事業**

機械・施設、家畜の導入、果樹・茶改植、リース料等に要する経費を支援

- ・対象者：認定新規就農者（就農時49歳以下）
- ・支援額：補助対象事業費の3/4を補助（補助対象事業費上限1,000万円）

※経営開始資金と併用の場合は補助対象事業費上限500万円

(単位：円)

交付主体	経営発展支援事業 (補助金額)	経営発展支援事業 推進事業費	計	交 付 対 象
十和田市	3,750,000	-	3,750,000	1人
三沢市	3,750,000	-	3,750,000	1人
六戸町	7,500,000	-	7,500,000	1人
東北町	7,500,000	-	7,500,000	1人
計	22,500,000	-	22,500,000	4人

(イ) 経営開始資金

経営リスクを負っている新規就農者の経営が軌道に乗るまでの間を支援

- ・対象者：認定新規就農者（就農時49歳以下）
- ・支援額：年間最大150万円、最長3年間交付

(単位：円)

交付主体	経営開始資金	経営開始資金推進 事業費	計	交 付 対 象
十和田市	3,000,000	-	3,000,000	2人
三沢市	3,000,000	-	3,000,000	2人
野辺地町	1,500,000	-	1,500,000	1人
七戸町	3,750,000	-	3,750,000	3人
横浜町	2,250,000	-	2,250,000	2人
東北町	2,250,000	-	2,250,000	2人
計	15,750,000	-	15,750,000	12人

(ウ) 農業次世代人材投資事業（経営開始型）※継続分のみ

経営リスクを負っている新規就農者の経営が軌道に乗るまでの間を支援

・対象者：認定新規就農者（就農時49歳以下）

・支援額：年間最大150万円、最長5年間交付

(単位：円)

交付主体	農業次世代人材投資事業（経営開始型）	農業次世代人材投資事業（経営開始型）推進事業費	計	交付対象
十和田市	12,000,000	48,000	12,048,000	9人
七戸町	1,500,000	-	1,500,000	1人
横浜町	3,750,000	-	3,750,000	3人
東北町	5,994,000	31,800	6,025,800	4人
六ヶ所村	1,500,000	-	1,500,000	1人
おいらせ町	1,500,000	5,300	1,505,300	2人
計	26,244,000	85,100	26,329,100	20人

注) 事業費、補助金は令和6年2月末現在の実績見込額

(7) 地域計画策定推進緊急対策事業（国庫 R5～6）

ア 事業目的

農業者等による協議（話し合い）を踏まえ、地域の農業の在り方や農地利用の姿を明確化した地域計画の策定に必要な取組を支援し、担い手への農地集積・集約化を図るために要する経費を交付する。

イ 事業内容等

(単位：円)

事業実施主体	事業費	補助金額
三沢市	228,000	228,000
六戸町	1,462,870	1,462,000
合計	1,690,870	1,690,000

注) 事業費、補助金額は令和6年2月末現在の実績見込額

(8) 経営所得安定対策直接支払推進事業 (国庫 H27~)**ア 事業目的**

市町村及び地域農業再生協議会が行う経営所得安定対策推進活動に要する以下の経費について、補助金を交付する。

- (ア) 経営所得安定対策等推進活動
- (イ) 経営所得安定対策の普及推進活動（説明会開催、普及広報資料作成、配布等）
- (ウ) 需要に応じた作物の生産方針等の策定
- (エ) 申請書類等の印刷、配布、回収、整理取りまとめ、受付
- (オ) 対象作物（産地交付金の助成作物を含む）の作付面積、生産数量等の確認事務
- (カ) 農業者情報、水田情報等のシステム入力、集計事務
- (キ) 産地交付金の要件設定、確認事務
- (ク) 荒廃農地又は遊休農地の再生利用に必要な活動 など

イ 補助対象経費

地域推進活動の実施に必要な謝金、旅費、賃金及び共済費等、事務等経費（印刷製本費、通信運搬費、光熱水料、雑役務費、消耗品費（燃料費含む）借料・損料等、会議費、備品費、委託費、助成費

ウ 補助率

国10/10以内

エ 補助金額

(単位：千円)

実施主体名	令和5年度 A	令和4年度 B	増減 A－B	備考
十和田市	14,748	15,000	▲252	R4 eMAFF移行費 (861千円)
三沢市	4,261	7,318	▲3,057	R4 eMAFF移行費 (1,768千円)
野辺地町	2,657	4,277	▲1,620	R4 eMAFF移行費 (1,768千円)
七戸町	4,740	4,605	135	R3にeMAFF移行済み
六戸町	1,841	3,557	▲1,716	R4 eMAFF移行費 (1,768千円)
横浜町	2,605	2,531	74	R3にeMAFF移行済み
東北町	5,660	7,267	▲1,607	R4 eMAFF移行費 (1,768千円)
おいらせ町	4,237	5,910	▲1,673	R4 eMAFF移行費 (1,768千円)
六ヶ所村	610	2,361	▲1,751	R4 eMAFF移行費 (1,769千円)
合計	41,359	52,827*	▲11,467	

※) 端数四捨五入処理のため合計値が合わない。

(9) 農地利用効率化等支援交付金（青森県経営体育成支援事業 国庫 R4～）**ア 事業目的**

高齢化・人口減少が本格化する中、地域の農地を適切に利用し、地域において目指すべき将来の集約化に重点を置いた農地利用の姿等を策定し、その実現に向け、生産の効率化に取り組む経営体が、プロジェクト融資を受けて農業用機械・施設を導入することに対し支援する。

イ 事業内容

(単位：円、件)

市町村	区分	事業内容	事業費等				経営 体数	件数
			総事業費	国費	融資額	自己資金		
東北町	先進的農業 経営確立支 援タイプ	トラクタ、 ローダー、 長芋収穫機	15,180,000	4,140,000	11,040,000	0	1	3
おいらせ 町	融資主体支 援タイプ	マニユアス プレッダー、 ホイールト レンチャー	6,600,000	1,800,000	4,800,000	0	2	2
計			21,780,000	5,940,000	15,840,000	0	3	5

(10) 担い手確保・経営強化支援事業（国庫 R4繰越）**ア 事業目的**

総合的なT P P等関連政策大綱（令和2年12月8日T P P等総合対策本部決定）に即し、次世代を担う経営感覚に優れた担い手を育成し、力強く持続可能な生産構造を実現するため、担い手の育成・確保の取組と農地の集積・集約化の取組を一体的かつ積極的に推進する地域において、地域の担い手が農産物の輸出の取組や将来の輸出の取組に向けた低コスト化、品目転換及び規模拡大並びに燃油・化学肥料の高騰、労働力不足等のリスクに対応し得る経営の確立など、意欲的な取組により農業経営の発展に取り組む際に必要となる農業用機械・施設の導入等を支援する。

イ 事業内容

(単位：円、件)

市町村	区分	事業内容	事業費等				経営 体数	件数
			総事業費	国費	融資額	自己資金		
十和田市	融資主体 型補助事 業	にんにく乾燥用ハ ウス1棟 308㎡、 にんにく乾燥設備 一式(乾燥機3台、 温風機5台)	9,625,000	4,375,000	5,250,000	0	1	2

※ 令和4年度から事業実施し、予算を明許繰越して令和5年度事業完了

3 その他の事業

(1) あおもりながいも産地力強化推進事業（国庫 R3～5）

ア 事業目的

「あおもりながいも産地力強化戦略」に基づき、ながいも出荷量日本一に向け、品種特性を維持するための種苗増殖方法の改善や新品種の早期導入のほか、省力栽培体系のシステム化と担い手の確保、育成に取り組む。

イ 事業内容（農業普及振興室が関わった部分）

(ア) 品種特性を維持するための種苗増殖方法の改善

- a 催芽切いも利用による種苗増殖方法改善モデルの実証
管内では、ながいもの達人1人に実証ほを委託し、簡易網室及び露地における催芽した種子重の違い（100g、120g）がむかご、成いもの収量に与える影響を把握した。



種苗増殖方法改善モデルの実証におけるむかご収量調査(12/21)

- b 増殖方法を改善した種苗の導入効果の実証

管内3か所（十和田市、三沢市、東北町）に実証ほを設置し、切いも由来のむかごから生産した1年子を使用して成いもを生産し、担当生産者慣行栽培の成いもと形状、揃い等を比較した。また、前年に引き続き、切いも由来のむかごを使用して1年子を生産し、担当生産者慣行栽培の1年子と形状、揃い等を比較した。

(イ) 新品種の早期導入

- a 新品種の特性に適した栽培技術を組み立てるための現地実証

管内3か所（三沢市、七戸町、東北町）に新品種候補2系統の現地実証ほを設置し、生育調査により各系統の特性を把握した。

(ウ) 地域の担い手の確保・育成

- a ながいもプロフェッショナル養成所研修の開催

農協と連携してながいも担い手育成塾生に対して「ながいもプロフェッショナル養成所研修」へ参加を呼びかけ、担い手農家のレベルアップにつなげた。

- b 生産技術チェックシートを活用した指導

生産技術チェックシートを活用した個別巡回指導により、担い手農家の技術改善につなげた。

(2) 技術力で未来へつなぐ青森にんにくブランド強化事業（県単 R4～6）

ア 事業目的

青森にんにくのトップブランドの地位を将来にわたって堅持するため、優良種苗増殖技術の普及や新品種の早期導入など、さらなる高品質安定生産に取り組む。

イ 事業実績（農業普及振興室が関わった部分）

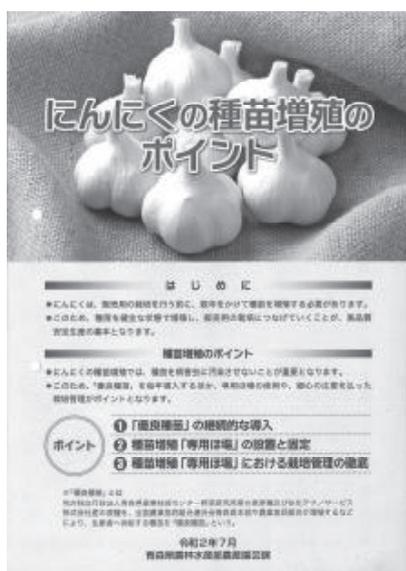
(ア) にんにく新品種「青森福雪」普及推進協議会への参加及び現地実証ほの運営支援
令和4年度に品種登録された「青森福雪」への円滑な品種の移行及び普及・定着を図るためにJA十和田おいらせ及びJAゆうき青森に現地実証ほを設置した。各地域での品種特性や地域適応性を確認しながら、生育・収量調査や栽培管理等に協力した。なお、令和6年産の現地実証には、新たにJAおいらせを追加設置した。

(イ) 生産者への優良種苗増殖技術の普及

「青森県にんにく優良種苗生産・供給指導指針」に基づき、生産者用に作成したリーフレット「にんにくの種苗増殖のポイント」や「乾燥チェックシート」等を活用しながら講習会を開催し、管内3農協で31回、延べ約680名の生産者に対し、イモグサレセンチュウやウイルス媒介虫の適正防除と併せて種苗増殖専用ほ場の重要性を指導した。

(ウ) JAと連携した土壌病虫害の診断及び防除対策の指導

JA営農指導員並びに若手普及指導員を対象に、イモグサレセンチュウ診断技術研修会を7月下旬～8月上旬に5回開催し、本線虫の発生生態・識別方法を指導した。また、各農協と情報共有しながら、病虫害等診断を実施し、うち線虫に関する診断依頼は47件あり、今後の防除対策を個別指導した。



JA職員診断技術研修会(8/9)

IV 令和5年度実施事業

V 気象経過と農作物の生育状況

1 気象経過の概要と半旬別気象図

(1) 気象経過の概要

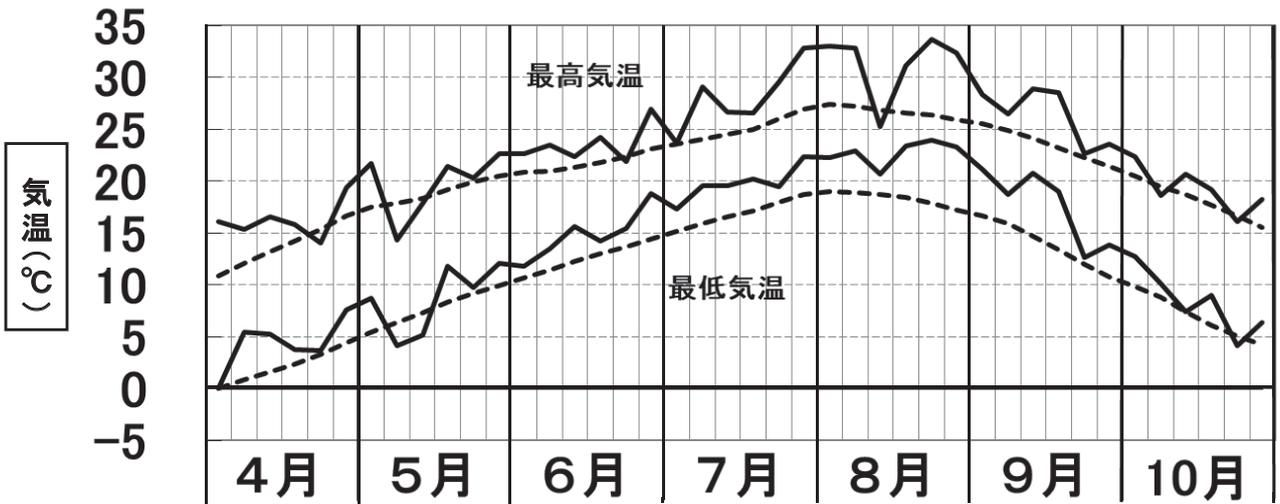
(青森地方気象台の資料に拠る)

月	概 要
4月	<ul style="list-style-type: none"> 平均気温は、期間をとおして平年並か平年を上回り、月平均気温は十和田市で10.4℃(平年差+2.4℃)、三沢市で10.8℃(平年差+2.4℃)と平年を上回った。 日照時間は第2、第3半旬を除き平年を上回り、月合計時間は平年を上回った。 降水量は第2、第3半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は平年を下回った。
5月	<ul style="list-style-type: none"> 平均気温は、第2、第3半旬を除き平年を上回って推移し、月平均気温は十和田市で14.1℃(平年差+0.9℃)、三沢市で14.2℃(平年差+1.1℃)と平年を上回った。 日照時間は、第2、第4、第5半旬を除き平年並か平年を上回り、月合計時間は十和田市が平年並、三沢市は平年を上回った。 降水量は、第2半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は平年を下回った。
6月	<ul style="list-style-type: none"> 平均気温は、期間をとおして平年を上回って推移し、月平均気温は十和田市で19.1℃(平年比+2.3℃)、三沢市で18.8℃(平年比+2.5℃)と平年を上回った。 日照時間は、第1、第4、第6半旬で平年を上回り、月合計時間は十和田市が平年並、三沢市は平年を上回った。 降水量は、十和田市は第1、第2半旬を除き平年並か平年を上回り、三沢市は第4、第5半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は平年並だった。 東北北部の梅雨入りは平年より4日早い6月11日だった。
7月	<ul style="list-style-type: none"> 平均気温は、期間をとおして平年を上回って推移し、月平均気温は十和田市で23.8℃(平年差+3.3℃)、三沢市で23.7℃(平年差+3.4℃)と平年を上回った。 日照時間は、第4半旬を除き平年を上回り、月合計時間は平年を上回った。 降水量は第3半旬を除き平年並か平年を下回り、月合計降水量は十和田市は平年を上回り、三沢市は平年並だった。 東北北部の梅雨明けは平年より6日早い7月22日だった。
8月	<ul style="list-style-type: none"> 平均気温は、期間をとおして平年を上回って推移し、月平均気温は十和田市で26.6℃(平年差+4.5℃)、三沢市で27.0℃(平年差+4.7℃)と平年を上回った。 日照時間は、第3半旬を除き平年並か上回り、月合計時間は平年を上回った。 降水量は、第3半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は十和田市は平年並、三沢市は平年を下回った。
9月	<ul style="list-style-type: none"> 平均気温は、期間をとおして平年並か平年を上回り、月平均気温は十和田市で21.6℃(平年差+3.1℃)、三沢市で22.3℃(平年差+3.1℃)と平年を上回った。 日照時間は、第5半旬を除き平年並か平年を下回り、月合計時間は平年を下回った。 降水量は、第2、第3、第4半旬を除き平年を上回り、月合計降水量は平年を上回った。
10月	<ul style="list-style-type: none"> 平均気温は、第5半旬を除き平年並か平年を上回り、月平均気温は十和田市で13.5℃(平年差+1.2℃)、三沢市で14.3℃(平年差+0.9℃)と平年を上回った。 日照時間は、第4半旬を除きで平年並か平年を上回り、月合計時間は平年を上回った。 降水量は、十和田市は第5半旬を除き平年を下回り、三沢市は第5、第6半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は平年を下回った。

(2) 半旬別気象図① <十和田アメダス>

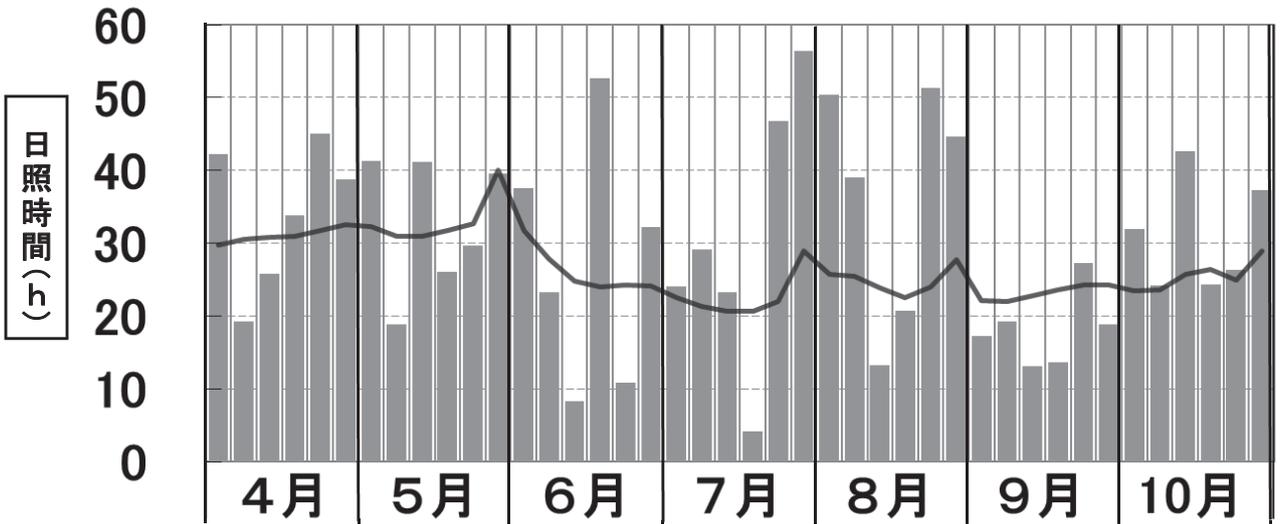
ア 気温 (半旬平均)

(本年 — 平年 - - - -)



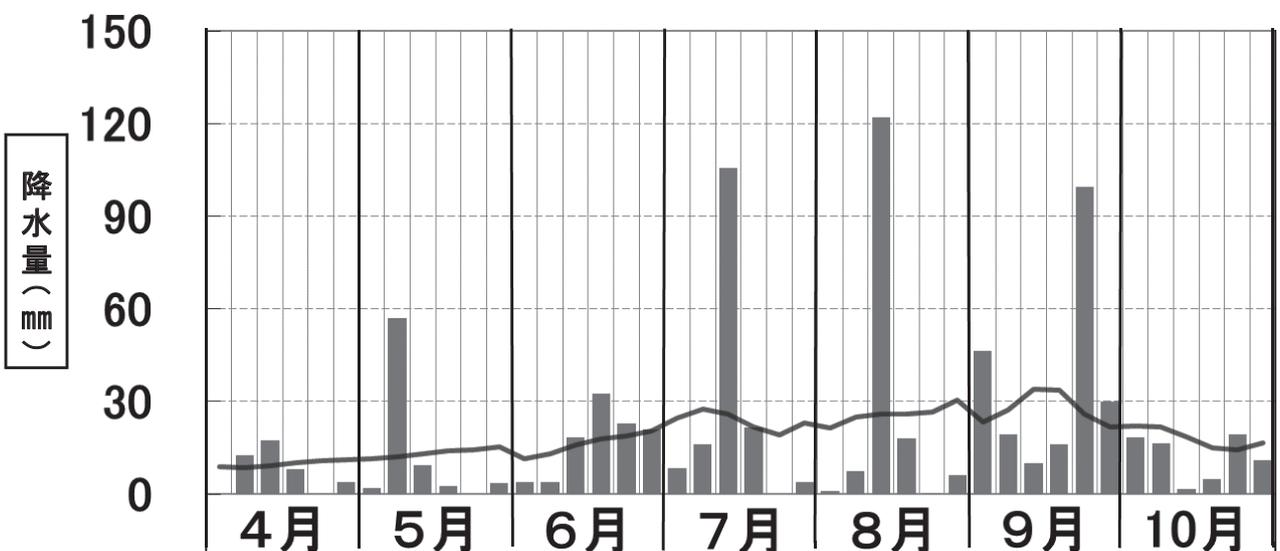
イ 日照時間 (半旬合計)

(本年 ■ 平年 —)



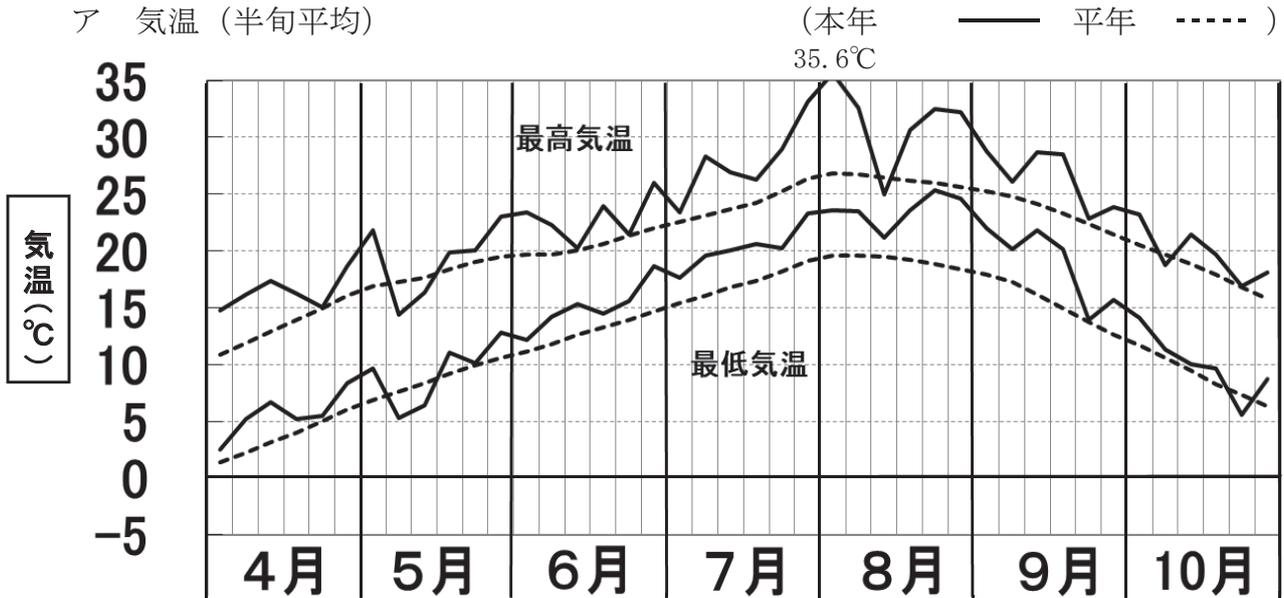
ウ 降水量 (半旬合計)

(本年 ■ 平年 —)

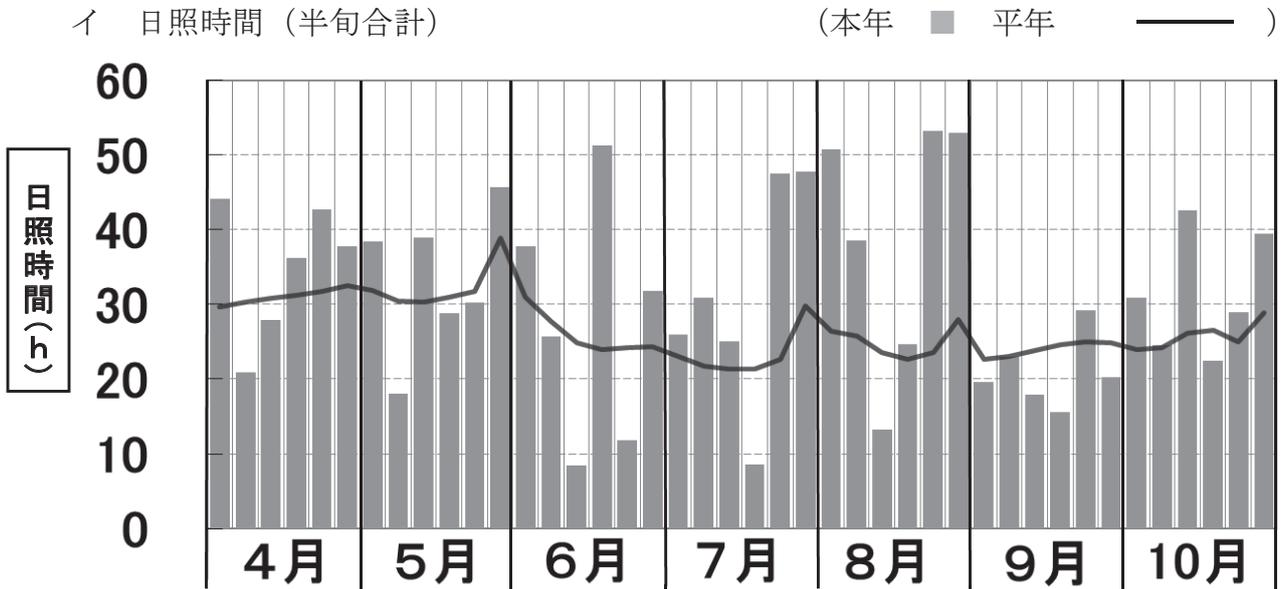


(3) 半旬別気象図② <三沢アメダス>

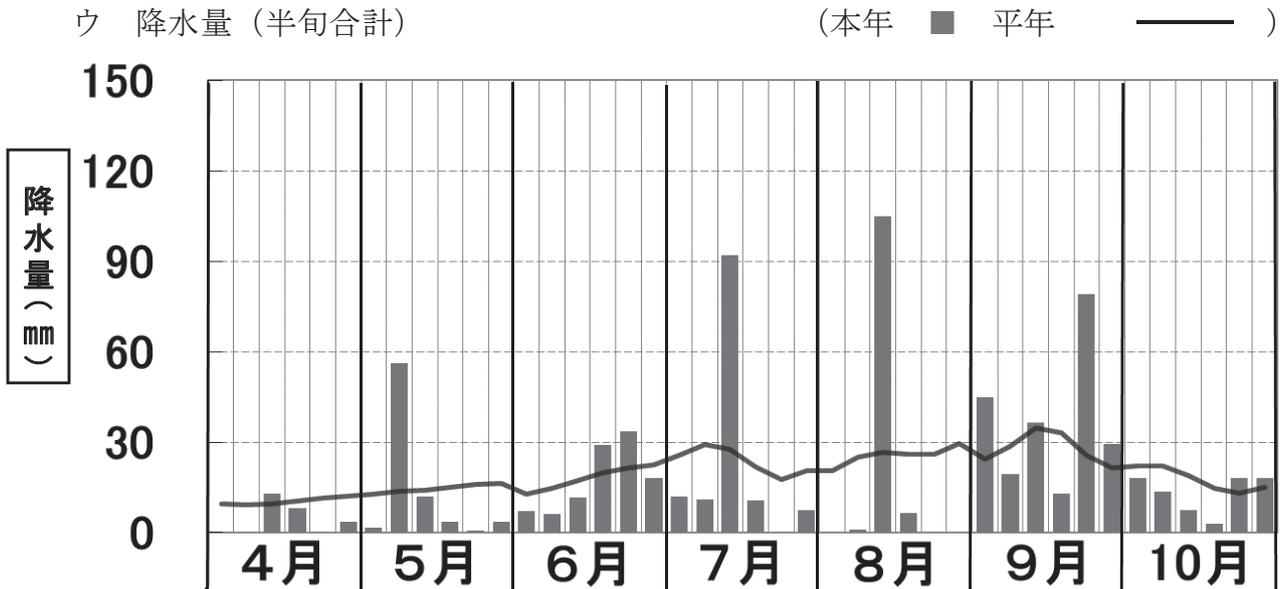
ア 気温 (半旬平均)



イ 日照時間 (半旬合計)



ウ 降水量 (半旬合計)



2 水稲

(1) 育苗期～田植期

- ・出芽、育苗時の生育は概ね順調であった。
- ・上北管内の田植最盛期は平年より1日早い5月20日であった。初期生育は順調で、表層剥離やアオミドロの発生が見られたが、生育への影響は少なかった。

表-1 管内田植進捗状況

作付面積 (ha)	田植え (月/日)			最盛期比較	
	始め	最盛期	終わり	平年差	前年差
6,715	5/14	5/20	5/26	早1日	±0

※「始め」は5%、「最盛期」は50%、「終わり」は95%が作業進捗した日

(2) 活着期～出穂期

- ・田植後から高温多照で推移した。6月20日現在の生育は、草丈が41.1cm (平年100%)、茎数は198本/m² (同91.2%)、葉数が7.4枚 (平年差+0.2枚) であった。
- ・7月に入っても気温、日照時間は平年を上回って推移し、管内の「まっしぐら」県生育観測ほにおける7月15日現在の生育は、草丈が73.4cm (平年116%)、茎数は422本/m² (同100%)、葉数が11.3枚 (平年差+0.9枚) であった。また、幼穂形成期は平年より5日早い7月7日、出穂期は平年より7日早い7月30日であった。さらに、上北管内の出穂最盛期は平年より6日早い7月31日であった。

表-2 県生育観測ほの生育状況 (6月20日～出穂期)

品 種	年次	6月20日				6月30日			
		草丈 (cm)	茎数 (本/株)	葉数 (枚)	m ² 茎数 (本)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	葉数 (枚)	m ² 茎数 (本)
まっしぐら	本年	41.1	10.1	7.4	198	51.4	18.4	9.4	356
	平年	41.2	10.6	7.2	217	48.6	17.4	8.6	356

品 種	年次	7月15日				幼 穂 形 成 期 (月/日)	出穂期 (月/日)
		草丈 (cm)	茎数 (本/株)	葉数 (枚)	m ² 茎数 (本)		
まっしぐら	本年	73.4	20.5	11.3	422	7/ 7	7/30
	平年	63.4	20.6	10.4	423	7/12	8/ 6

※本年の調査月日は7月14日。

※本年値は管内4地点の平均値。平年値は3～18か年の平均値

表-3 管内出穂状況

出穂 (月/日)			最盛期比較	
始め	最盛期	終わり	平年差	前年差
7/29	7/31	8/ 2	早6日	早4日

※「始め」は5%、「最盛期」は50%、「終わり」は95%が出穂した日

(3) 登熟期～成熟期

- ・ 8月3半旬に最高気温が平年を下回ったが、その後、高温少雨傾向で推移したことから、登熟は順調に進み、刈取り時期が大幅に早まり、管内の刈取最盛期は平年より12早い9月25日であった。
- ・ 成熟期の稈長は81.8cm（平年比109%）、穂長は18.6cm（同103%）、穂数は364本/m²（同101%）であった。また、籾数は83.6粒/穂（同98%）、30,500粒/m²（同100%）で平年並であった。

表-4 県生育観測ほの生育状況（成熟期）

品 種	年次	稈長	穂長	穂数	m ² 穂数	1穂 籾数	m ² 籾数	登熟 歩合
		(cm)	(cm)	(本/株)	(本)	(粒)	(×100粒)	(%)
まっしぐら	本年	81.8	18.6	17.7	364	83.6	305	84.6
	平年	75.0	18.1	17.6	361	85.4	305	85.6

※本年値は管内4地点の平均値。平年値は3～18か年の平均値

表-5 管内稲刈進捗状況

刈取り（月/日）			最盛期比較	
始め	最盛期	終わり	平年差	前年差
9/15	9/25	10/6	早12日	早10日

※「始め」は5%、「最盛期」は50%、「終わり」は95%が作業進捗した日

(4) 病害虫発生状況

- ・ 七戸町の一部ほ場で葉いもちが多発し、穂いもちに移行したほ場が見られたが、上北管内のいもち病の発生は平年より少なかった。
- ・ 稲こうじ病の発生は、近年、稲の生育期間全般が高温であることから、管内全体の発生程度が高まってきている。
- ・ 7月から8月が高温であったことから、斑点米カメムシ類の発生量が多かった。

(5) 収量・品質

ア 県生育観測ほの収量・品質

- ・ 生育観測ほにおける「まっしぐら」の平均収量は688kg/10a（平年比113%）であった。玄米千粒重は23.6g（同103%）であった。
- ・ 高温登熟の影響による白未熟粒の発生やカメムシ類による斑点米の発生がみられたが、検査等級は1等であった。

表-6 生育観測ほの収量等

品 種	年次	全 重	わら重	精籾重	玄米重	屑米重	千粒重
		(kg/10a)	(kg/10a)	(kg/10a)	(kg/10a)	(kg/10a)	(g)
まっしぐら	本年	1,641	702	870	688	28	23.6
	平年	1,555	703	801	610	36	23.0

※本年値は管内4地点の平均値。平年値は3～18か年の平均値

V 気象経過と農作物の生育状況

イ 作柄概況

- ・東北農政局が公表した、「南部・下北地帯」の10a当たり収量（1.70mmふるい）は571kg/10aで、作況指数は「102」の「やや良」であった。

表-7 作柄表示地帯別収穫量

地帯	項目	10 a 当たり収穫量(kg)			作況指数		
		R5	R4	R3	R5	R4	R3
青森県		614	594	616	102	99	102
	青森地帯	599	593	607	102	101	102
	津軽地帯	635	606	640	102	97	102
	南部・下北地帯	571	569	564	102	101	100

※10a当たり収穫量は1.70mmふるいベース

※東北農政局公表：作況指数は11月10日現在、収穫量は12月12日

ウ 検査状況

- ・管内 J A 取扱のうるち玄米の1等米比率は55.0%であった。
- ・本年の落等の要因としては、登熟期間が高温であったことから白未熟粒が発生したことによる「形質」によるものが多く、次いで斑点米カメムシ類による「着色粒」、玄米の皮が厚い、溝が深いといった「整粒不足」が挙げられている。

表-8 検査状況（うるち玄米）

地域	項目	1等米比率 (%)				
		R5年産米	R4年産米	R3年産米	R2年産米	R1年産米
県全体		68.2	92.2	91.7	93.5	90.5
上北管内		55.0	95.6	93.6	90.6	90.4

※県全体は東北農政局公表。R5年産米は令和5年11月30日現在の速報値

※上北管内は管内 J A からの聞取りによる推定値

3 畑作物

(1) 小麦（ネバリゴシ）

ア 生育状況

(ア) は種期～開花期

- ・は種作業は9月20日頃から始まり、出芽は良好であった。越冬前の草丈、茎数は平年を下回り、葉数は平年を上回った。
- ・県生育観測ほの幼穂形成期は平年より10日早い3月23日で、生育量は多かった。
- ・出穂期は平年より6日早く、開花期は5日早かった。

(イ) 登熟期～成熟期

- ・県生育観測ほの成熟期は平年より6日早い7月2日であった。成熟期の生育は、稈長・穂長ともに平年より長く、 m^2 当たり穂数は平年より多かった。
- ・小麦の生育が平年より早まっていることをうけ、JA十和田おいらせカントリーの小麦の受入は平年より早い6月26日から始まった。穂発芽の発生はみられなかった。

(ウ) 病虫害発生状況

- ・越冬後の雪腐病の発生は平年より少なかった。
- ・うどんこ病は少程度発生していたが、生育への影響はみられなかった。

表-1 県生育観測ほの生育状況（十和田市相坂）

年次	は種期 (月/日)	幼穂 形成期 (月/日)	出穂期 (月/日)	開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)	成熟期の生育			
						稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/ m^2)	1穂粒数 (粒/本)
本年	10/ 6	3/23	5/16	5/24	7/ 2	84.4	8.7	894	46.4
平年	9/27	4/ 2	5/22	5/29	7/ 8	80.2	7.9	597	30.2
前年	10/ 2	4/ 4	5/17	5/24	7/ 4	86.4	8.8	691	52.3

※平年は、H14～R4年の平均値

イ 収量・品質等

県生育観測ほの収量は、子実重・千粒重は平年を上回り、容積重は平年を下回った。検査等級は1等であった。

表-2 県生育観測ほの収量等（十和田市相坂）

年次	子実重 (kg/10a)	千粒重 (g)	容積重 (g/L)
本年	578	34.8	803
平年	427	32.6	814
前年	647	34.4	844

※平年は、H14～R4年の平均値

(2) 大豆（おおすず）

ア 生育状況

(ア) は種期～開花期

- ・は種作業は5月26日頃から始まり、6月3日頃に最盛期を迎えた。出芽は良好であった。
- ・開花期までの気温は高く、順調に生育した。県生育観測ほの開花期は平年より8日早い7月27日で、草丈は平年を上回った。

(イ) 登熟期～成熟期

- ・期間をとおして平年より気温が高く、乾燥気味に経過したが、高温による葉のしおれや落花等の被害はみられなかった。
- ・9月10日の調査では、県生育観測ほの草丈は128.7cmで平年より長く、葉数は前年より少なかった。成熟期は平年より11日早い10月6日であった。
- ・管内の刈取作業は水稻やそば等の他作物の作業と競合したため、刈取最盛期は平年より4日遅い11月6日、刈取終は平年より6日遅い11月24日であった。

(ウ) 病虫害発生状況

- ・食葉性害虫の発生が例年より多く、べと病の発生は少程度であった。
- ・マメシンクイガの発生は平年並で、カメムシによる被害が平年より多かった。紫斑病の発生は少なかった。

表-3 県生育観測ほの生育ステージ（十和田市下切田）

年次	は種期 (月/日)	開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)	7月10日		8月10日		9月10日	
				草丈 (cm)	葉数 (枚/本)	草丈 (cm)	葉数 (枚/本)	草丈 (cm)	葉数 (枚/本)
本年	6/ 5	7/27	10/ 6	53.2	7.0	124.6	14.1	128.7	14.1
平年	6/ 7	8/ 4	10/17	30.1	-	83.5	-	98.9	-
前年	6/12	7/31	10/18	40.0	5.7	97.1	14.7	101.7	15.0

※平年は、H13～R 4年の平均値

※葉数は令和3年度から調査開始のため平年値なし

イ 収量・品質等

県生育観測ほの収量は、子実重は平年より39kg多い328kg/10a（平年比113%）だった。分枝数は平年より多く、稔実莢数は平年より少なかった。百粒重は平年より軽かった。検査等級は2等であった。

表-4 県生育観測ほの収量等（十和田市下切田）

年次	子実重 (kg/10a)	百粒重 (g)	分枝数 (本/本)	稔実莢数 (個/本)
本年	328	32.3	4.8	38.9
平年	289	35.6	3.3	40.0
前年	334	39.1	6.9	53.7

※平年は、H13～R 4年の平均値

4 野菜

(1) ながいも

- ・一般農家の植付作業は、4月末頃から始まった。植付の最盛期は、芽付き種子の多いJAゆうき青森管内では5月15日頃で、JA十和田おいらせ管内では5月22日頃、JAおいらせ管内では6月4日頃であった。管内全体の植付終了は、例年並みの6月15日頃だった。
- ・生育観測ほの植付は5月5日で、平年より7日早かった。5月第2、3半旬の気温が平年より低かったものの、おおむね好天で経過したことから、萌芽揃いは平年より5日早い6月1日であった。
- ・生育観測ほにおける新しいもの生育は、7月10日時点ではいも長、いも重が平年を下回っていたものの、高温で推移したことから8月10日時点ではいも長、いも重、いも径ともに平年を上回った。9月10日時点でもいも長、いも重、いも径ともに平年を上回ったものの、10月10日時点ではいも径が平年並となった。
- ・一般農家のほ場では、7月中旬以降の乾燥の影響で、茎葉の繁茂が緩慢で葉色が淡く、追肥が効いていないほ場が散見された。また、高温乾燥が続いたため、いもが細長い傾向が見られた。
- ・生育観測ほにおける収穫時の調査では、いも径は平年を下回ったものの、いも全長、いも長及び全重は、平年を大幅に上回ったため、収量も平年を大幅に上回った。品質では、AB品率は85.1%で、平年をやや上回り、規格別では4Lの割合が高かった。
- ・病害は、8月上旬から葉渋病、炭疽病の発生が広く見られた。害虫ではナガイモコガやコガネムシ類の発生が見られ、9月以降ナガイモコガの食害が目立つほ場が散見された。また、カスミカメムシ類による葉の被害が一部ほ場で確認された。

表-1 生育観測ほの生育状況（東北町子ノ鳥平）

年次	植付期 (月/日)	萌芽 揃期 (月/日)	つるの ネット頂 到達日	7月10日			8月10日		
				全長 (cm)	全重 (g)	いも径 (mm)	全長 (cm)	全重 (g)	いも径 (mm)
本年	5/ 5	6/ 1	7/10	9.9	3.8	9.0	39.8	230.1	41.0
平年	5/12	6/ 6	7/10	13.7	5.7	7.3	38.8	186.1	36.4
前年	5/ 9	6/ 8	7/10	13.8	6.7	7.9	43.3	224.4	42.7

※平年は、H25～R4の平均値

年次	9月10日			10月10日			収穫期 (月/日)
	全長 (cm)	全重 (g)	いも径 (mm)	全長 (cm)	全重 (g)	いも径 (mm)	
本年	78.3	905.0	54.8	95.3	1,300.0	56.4	11/13
平年	63.2	767.5	52.5	70.0	982.0	55.5	11/12
前年	66.0	744.0	56.1	72.2	967.0	55.2	11/ 9

V 気象経過と農作物の生育状況

表-2 生育観測ほの収量等（東北町子ノ鳥平）

年次	全 長 (cm)	いも長 (cm)	全 重 (g)	いも径 (mm)	総収量 (kg/10a)	A品率 (%)
本年	84.6	60.7	1,365	52.6	5,142	50.2
平年	69.6	49.8	956	55.8	3,923	49.1
前年	70.4	46.3	836	53.7	3,137	40.7

(2) にんにく

- ・生育観測ほの植付日は平年より4日早い9月29日であった。一般ほ場の植付作業は例年並みの9月25日頃から始まり、例年より早い10月中旬で終了した。雪解けが早く、高温気味に経過したため、越冬後の生育量は旺盛で、りん片分化期は平年より8日早い4月15日であった。5月以降の生育は停滞し、6月上旬の地上部の生育量は平年を下回り、りん球の肥大は平年をやや上回る程度であった。
- ・生育観測ほの収穫期は枯れ上がり早く6月20日頃を適期としたが、6月後半の球の肥大が停滞したことや降雨の影響で平年並みの6月26日となった。乾燥収量は平年比73%と著しく低く、品質は球割れや着色がみられ、A品率は平年をかなり下回った。
- ・一般ほ場においては、天候に恵まれ、地上部の生育は平年を上回る状況であったが、りん球の肥大は停滞し、収量的に平年並み～平年を下回り、2L～L規格品が少なく、M規格が多い状況であった。収穫が遅れたほ場や春腐病の発生が多かったほ場では球割れや着色が多く落等原因となった。また、6月後半から7月中旬の大雨等の影響で乾燥に時間を要し、湿気戻りによるかび繁殖や腐敗球が例年より多かった。

表-3 生育観測ほの生育状況（七戸町榎林）

年次	植付期 (月/日)	4月10日			りん片 分化期 (月/日)	5月10日		
		草丈 (cm)	生鱗 (枚)	茎径 (mm)		草丈 (cm)	生鱗 (枚)	茎径 (mm)
本年	9/29	33.7	4.9	11.8	4/15	66.2	7.6	18.1
平年	10/3	26.2	4.1	12.2	4/23	62.5	7.3	18.2
前年	9/21	33.6	3.9	18.0	4/16	73.8	8.2	22.5

※平年はH8～R4の平均値

表-4 生育観測ほの生育状況・収量（七戸町榎林）

年次	6月9日					収穫期 (月/日)	乾 燥 収 量 (kg/10a)	2L+ L率 (%)	A品率 (%)
	草丈 (cm)	生鱗 (枚)	茎径 (mm)	球径 (cm)	球重 (g)				
本年	75.7	6.9	16.4	54.6	85.0	6/26	768	20.2	33.7
平年	82.7	8.1	20.8	54.5	72.8	6/27	1,045	77.2	71.9
前年	83.0	7.3	21.6	71.0	126.7	6/21	1,137	85.1	70.9

※平年はH8～R4の平均値

(3) ねぎ

- ・生育観測ほの定植期は4月1日で、平年より16日早かった。定植後の強風や5月、7～8月の高温乾燥の影響によって生育は草丈、茎径いずれも平年を下回って推移した。収穫期は平年より3日早い8月19日で、収量は平年をやや下回った（平年比97%）。
- ・一般農家の定植は例年より数日早い3月下旬から始まった。5月の高温乾燥の影響で、一部ほ場において定植後の活着不良による葉先枯れが見られた。また、7～8月の高温乾燥の影響によって萎凋病や軟腐病が見られたほか、一部ほ場においてアザミウマ類やヨトウ類による被害がみられた。

表-5 生育観測ほの生育状況（十和田市洞内）

年次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	6月10日		7月10日		8月10日	
			草丈 (cm)	茎径 (cm)	草丈 (cm)	茎径 (cm)	草丈 (cm)	茎径 (cm)
本年	1/20	4/ 1	43.2	9.0	87.5	20.7	96.0	25.6
平年	1/30	4/17	55.8	10.9	90.3	21.7	109.7	27.2
前年	1/20	4/11	54.1	12.1	86.1	20.7	104.6	28.6

※平年は、R 2～R 4の平均値

※R 2年度に調査作型を9月どりから8月どりに変更した。

表-6 生育観測ほの収量等（十和田市洞内）

年次	収穫期 (月日)	全長 (cm)	調製茎径 (cm)	軟白長 (cm)	調製1本重 (g)	収量 (kg/10a)
本年	8/19	95.2	21.7	25.0	209.9	3,941
平年	8/22	101.5	21.4	27.2	194.7	4,082
前年	8/17	98.9	20.8	24.3	184.4	2,933

(4) ごぼう

- ・生育観測ほのは種期は平年より3日早い4月28日であった。発芽は良好で、生育も順調に進み、6月～9月の草丈、葉数はともに平年並か、平年を上回った。収穫期は10月17日で平年より23日遅かった。収量は10aあたり3,520kgで平年を上回り、品質は曲がりが見られたものの、A品率は87%で平年を上回った。
- ・一般ほ場では7月中旬の強雨による浸水での腐敗、穴落ちによる品質低下が一部で見られたが、全体としては品質は良好で、太物が多かった。

表-7 生育観測ほの生育状況（三沢市猫又）

年次	は種期 (月日)	6月10日		7月10日		8月10日		9月10日	
		草丈 (cm)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	葉数 (枚)
本年	4/28	14.9	2.7	91.8	4.6	127.7	3.7	96.0	4.9
平年	5/ 1	10.3	1.8	66.7	3.8	115.7	2.8	96.9	3.2
前年	5/11	7.6	0.7	65.8	4.1	105.2	2.6	101.8	3.6

※平年は、H25～R 4の平均値。

V 気象経過と農作物の生育状況

表-8 生育観測ほの収量等 (三沢市猫又)

年次	収穫期						
	収穫期 (月日)	根長 (cm)	根径 (mm)	調製根重 (g)	収量 (kg/10a)	A品 (%)	B品 (%)
本年	10/17	88.7	23.2	232.3	3,520	87	13
平年	9/24	82.6	20.1	194.2	2,868	74	22
前年	10/ 3	78.0	20.4	194.8	2,952	55	43

(5) 春夏にんじん

- ・生育観測ほのは種期は、3月15日で平年より2日遅かった。4～6月の気温が平年より高く、生育は平年をやや上回って推移した。収穫期は平年より3日早い6月19日で、収量は10a当たり5,563kgで平年比111%であった。規格は2Lが中心で、品質はA品率が平年よりかなり高かった。
- ・一般農家のトンネル栽培のは種作業は、平年並の3月12日から始まり、4月第1半旬までにはほぼ終了した。
- ・その後の生育は順調に経過し、収穫始めは例年より7日程度早い6月18日で、品質は概ね良好であった。抽台株、裂根、しみ症等の発生は少なかった。

表-9 生育観測ほの生育状況 (六戸町下吉田：トンネル栽培)

年次	は種期 (月/日)	5月10日		6月10日				
		葉長 (cm)	葉数 (枚)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (g)
本年	3/15	19.0	5.6	57.7	8.5	23.2	4.0	116.0
平年	3/13	20.6	5.2	60.2	8.7	17.3	3.8	102.2
前年	3/11	25.8	6.0	64.7	9.0	22.0	4.1	130.9

※平年は、H25～R4年の平均値

表-10 生育観測ほの収量等 (六戸町下吉田：トンネル栽培)

年次	収穫期 (月日)	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (g)	収量 (kg/10a)	品質・規格別割合 (%)						
						A品	B品	3L	2L	L	M	S
本年	6/19	16.8	4.5	166.9	5,563	100	0	8	47	21	17	5
平年	6/22	16.8	4.7	162.7	4,998	79	11	1	17	45	25	2
前年	6/13	17.9	5.2	200.5	5,164	66	11	0	50	18	9	0

※平年は、H25～R4年の平均値

(6) ばれいしょ

- ・生育観測ほの植付期は平年より8日早い3月25日、萌芽期は10日早い4月24日であった。その後の生育は比較的順調で、着蕾期及び開花期はそれぞれ平年より6日、5日早かった。枯凋期は7月16日で平年より2日早かった。
- ・総いも数は10a当たり51,071個で平年比120%、販売重は10a当たり4,619kgで124%であった。規格割合は例年同様L、M中心で、品質は二次成長などが少なく良好であった。

- ・病害虫では、疫病、そうか病の発生は殆ど認められず、7月からアブラムシ類の発生が見られた。

表-11 生育観測ほの生育状況（三沢市庭構、マルチ栽培）

年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	枯凋期 (月日)	5月10日		6月10日	
						草丈 (cm)	茎数 (本)	草丈 (cm)	茎数 (本)
本年	3/25	4/24	5/19	6/ 3	7/16	11.3	2.1	56.0	2.0
平年	4/ 2	5/ 4	5/25	6/ 8	7/18	12.4	2.4	65.0	2.4
前年	4/ 3	5/ 3	5/24	6/ 6	7/11	13.2	2.4	57.5	1.7

※平年は、H25～R 4年の平均値

表-12 生育観測ほの収量等（三沢市庭構、マルチ栽培）

年次	総いも数 (個/10a)	販売重 (kg/10a)	規格別割合 (%)					
			3L	2L	L	M	S	外
本年	51,071	4,619	2	14	38	33	7	6
平年	42,504	3,740	6	15	32	27	9	11
前年	49,107	4,148	1	12	34	34	12	7

※平年は、H25～R 4年の平均値

(7) 春だいこん

- ・生育観測ほのは種期は、3月16日と平年より3日早かった。生育は気温が平年を上回って推移したことから順調に進み、5月10日の生育は葉長が36cmで平年比101%、根重が396gで平年比139%となった。収穫は5月22日と平年より5日早く、根長は32.6cmで平年比92%、根重は1,069gで同92%、収量は10a当たり7,425kgで同97%となった。規格はL級が中心で、品質はA品が100%となった。
- ・一般農家のトンネル栽培のは種作業は、例年並の3月7日頃から始まり、その後も順次作業が進み、例年より5日程度早い3月20日頃で終了した。トンネル栽培の収穫は例年より5日程度早い5月15日から始まった。品質は良好であった。

表-13 生育観測ほの生育状況（おいらせ町内山平：トンネル・マルチ栽培）

年次	は種期 (月/日)	4月10日		5月10日		
		葉長 (cm)	葉数 (枚)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
本年	3/16	8.9	3.1	36.0	20.3	396.0
平年	3/19	7.9	2.3	35.6	21.5	285.0
前年	3/18	11.8	4.1	36.1	22.5	400.3

※平年は、H25～R 4年の平均値

V 気象経過と農作物の生育状況

表-14 生育観測ほの収量等（おいらせ町内山平：トンネル・マルチ栽培）

年次	収穫期 (月/日)	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (g)	収量 (kg/10a)	品質・規格別割合 (%)				
						A品	B品	2L	L	M
本年	5/22	32.6	7.9	1,069	7,425	100	0	11	85	4
平年	5/27	35.3	7.8	1,157	7,694	83	11	43	37	13
前年	5/25	35.2	7.5	1,111	7,715	100	0	34	54	4

※平年は、H25～R4年の平均値

(8) 秋冬だいこん

- ・生育観測ほのは種期は平年より1日早い8月8日で、発芽状況は良好であり、地上部、地下部ともに平年を上回った。
- ・収穫時期は平年より1日早い10月10日で、地上部、地下部ともに平年を上回った。
- ・収量は平年比111%の8,112kg/10aで、A品率は平年を14.8ポイント上回る75.6%だった。
- ・一般ほ場の夏だいこんでは、高温の影響による黒芯病が発生していたものの、秋冬だいこんでは目立った病害虫の発生はなかった。

表-15 生育観測ほの生育状況・収量等（東北町乙部）

年次	は種期 (月/日)	9月10日			収 穫 期						
		葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)	収穫期 (月/日)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (g)	収量 (kg/10a)
本年	8/8	33.7	14.4	85.8	10/10	47.9	22.9	37.4	7.5	1,107	8,112
平年	8/7	30.4	13.9	67.0	10/11	43.7	21.6	32.9	6.6	938	7,305
前年	8/5	29.6	11.5	41.2	10/7	55.6	25.9	40.6	7.2	1,078	8,783

※平年は、H13～R4の平均値

※本年から担当農家に変更となったため、平年値、前年値は参考

5 花き（りんどう）

- ・お盆向けの作型は、高温の影響により例年より10日ほど早い7月20日頃から収穫が始まり、8月5日頃には終了した。
- ・高温の影響で、花卉や葉の枯れ、つぼみが開き気味になるなどの症状が多くみられ、お盆向けのものは例年の3割程度、彼岸向けのものは例年の1割未満の出荷量となった。

6 果樹

(1) りんご

- ・「ふじ」の発芽日は、平年に比べ13日早く、生育ステージの早かった前年に比べても1日早く、落花日は平年より11日早く、前年より4日早かった。発芽から落花までの期間が平年より温暖に経過したと考えられる。
- ・また、11月1日の果実肥大は、平年より大きい8.8cmであった。

表-1 生育ステージ調査（品種：ふじ、十和田市米田）

場所\項目		発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
十和田市（本年）		3/26	4/6	4/28	5/1	5/7
十和田市（平年）		4/8	4/18	5/8	5/12	5/18
十和田市（前年）		4/7	4/13	5/2	5/6	5/11
五戸	県南果樹部(本年)	3/23	4/4	4/25	5/1	5/7
	県南果樹部(前年)	4/5	4/11	4/28	5/5	5/11
	県南果樹部(平年)	4/7	4/19	5/9	5/13	5/19
黒石	りんご研(本年)	3/23	4/3	4/25	5/1	5/5

※十和田市の平年値はH19～R4年の16年間の平均

（地独）りんご研究所の平年値はH13～R2年（20年間）

表-2 果実肥大調査（品種：ふじ、横径、十和田市米田）（単位：cm）

場所\月日		6月1日	7月1日	8月1日	9月1日	10月1日	11月1日
十和田市（本年）		2.2	4.7	6.5	7.9	8.5	8.8
十和田市（前年）		2.4	4.3	6.5	8.0	8.8	9.2
十和田市（平年）		1.8	4.2	6.2	7.5	8.3	8.7
五戸	県南果樹部(本年)	2.3	4.8	6.8	8.2	8.9	9.2
	県南果樹部(前年)	2.3	4.5	6.6	8.1	9.0	9.4
	県南果樹部(平年)	1.3	3.9	6.0	7.6	8.5	8.9
黒石	りんご研(本年)	2.7	5.1	6.9	7.7	8.4	8.8

※十和田市の平年値はH29～R4年の6年間の平均

（地独）りんご研究所の平年値はH13～R2年（20年間）

7 飼料作物

(1) 牧草

- ・生育観測ほの消雪日は3月20日で平年より4日早かった。
- ・4月から5月上旬にかけて平年よりも日照時間と降水量がやや多かったことから、一番草の乾物収量は、平年よりやや多い397kg/10a（平年比108%）となった。
- ・6月から7月上旬にかけて平均気温が平年を上回り、降水量も平年並であったことから、二番草の乾物収量は平年よりも多い305kg/10a（平年比145%）となった。
- ・8月は雨の日が少なく高温が続いたため、三番草の乾物収量は平年より少ない168kg/10a（平年比90%）となった。
- ・生育観測ほの年間乾物収量は平年よりも多い869kg/10a（平年比114%）であった。

表-1 十和田市（米田）生育観測ほ（オーチャードグラス）

年次	消雪日 (月/日)	一番草		二番草		三番草		年間 乾物収量 (kg/10a)
		刈取日 (月/日)	乾物収量 (kg/10a)	刈取日 (月/日)	乾物収量 (kg/10a)	刈取日 (月/日)	乾物収量 (kg/10a)	
本年	3/20	5/22	397	7/18	305	9/12	168	869
平年	3/24	5/23	366	7/17	210	9/18	187	763
平年比	4日早	1日早	108%	1日遅	145%	6日早	90%	114%

※平年値：過去10年の平均

(2) 飼料用とうもろこし（パイオニア115日）

- ・生育観測ほのは種日は平年より1日遅い5月22日、出芽は平年より1日遅い5月31日であった。7月、8月の平均気温が高く日照時間も多かったため生育が良く、刈取日は平年より15日早い9月12日であった。
- ・収量調査の結果、稈長は平年比134%と高かったが、乾物収量は全量で1,733kg/10a（平年比94%）、TDN収量は1,221kg/10a（平年比96%）とやや低かった。

表-2 東北町（北栄）生育観測ほ（品種：パイオニア115日）

年次	は種日 (月/日)	出芽期 (月/日)	絹糸 抽出期 (月/日)	刈取日 (月/日)	収量調査結果				
					稈長 (cm)	乾物収量		乾物率 (%)	TDN収量 (kg/10a)
						全重 (kg/10a)	雌穂重 (kg/10a)		
本年	5/22	5/31	8/6	9/12	331	1,733	962	31.8	1,221
平年	5/21	5/30	8/8	9/27	247	1,838	935	32.8	1,272
平年比	1日遅	1日遅	2日早	15日早	134%	94%	103%	-1.0	96%

※平年値：過去10年の平均

8 気象災害

(1) 災害概況

10月5日から6日にかけて発達した低気圧の影響で、全県的に風雨が強く、十和田市で最大瞬間風速25m/s以上が観測され、六ヶ所村のビニールハウスで損壊等の被害があった。

(2) 災害発生による被害額

- ・令和5年10月上旬の暴風被害
農業用パイプハウス被害 1棟 274千円

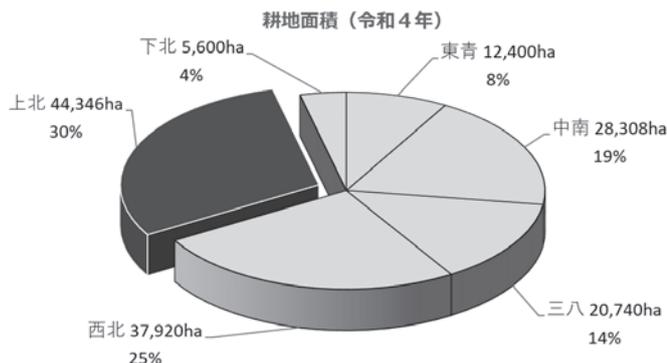
VI 附表

1 地域農業の概要

(1) 耕地面積

耕地面積は44,346haと、県全体(149,300ha)の約3割を占め、県内で最も多い地域である。

その内訳は、水田22,125ha、畑22,234haとなっている。



(単位：ha)

市町村	耕地面積	田		畑		担い手への集積率 (%)
		面積	割合 (%)	面積	割合 (%)	
十和田市	12,300	8,460	68.8%	3,830	31.1%	60.2%
三沢市	3,780	1,880	49.7%	1,900	50.3%	60.7%
野辺地町	656	212	32.3%	444	67.7%	31.6%
七戸町	6,930	3,860	55.7%	3,080	44.4%	48.6%
六戸町	3,460	1,960	56.6%	1,500	43.4%	60.9%
横浜町	2,160	377	17.5%	1,790	82.9%	46.8%
東北町	8,100	3,160	39.0%	4,940	61.0%	48.0%
六ヶ所村	3,730	566	15.2%	3,170	85.0%	48.3%
おいらせ町	3,230	1,650	51.1%	1,580	48.9%	68.6%
上北計	44,346	22,125	49.9%	22,234	50.1%	54.8%
県計	149,300	78,900	52.8%	70,400	47.2%	58.1%

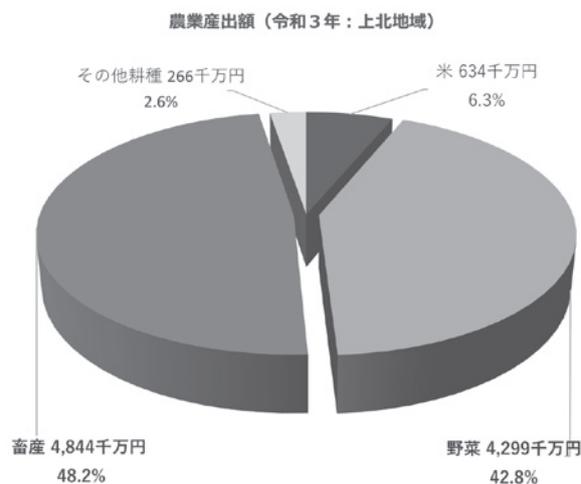
[耕地面積は令和4年作物統計、担い手への集積率は東北農政局調べ(令和5年5月)]

(2) 農業産出額

令和3年の上北地域の農業産出額は1,006億円で県全体の30.8%を占め、地域別では県内1位となっている。

特に、野菜は県全体の57.1%、畜産も県全体の51.5%と約5割を占めている。

地域全体では、耕種と畜産が半々の構成となっている。



Ⅵ 付表

上北の市町村別農業産出額（令和3年）

（単位：千万円、％）

市町村	耕 種				畜 産						合計
	米	野菜	その他	計	肉用牛	乳用牛	豚	鶏	その他	計	
十和田市	287	845	33	1,173	384	26	905	60	1	1,375	2,548
三 沢 市	16	701	35	752	34	24	372	303	53	786	1,538
野辺地町	2	28	2	34	-	178	-	-	0	178	212
七 戸 町	123	271	28	424	555	11	27	-	6	599	1,023
六 戸 町	63	606	16	686	5	5	X	0	X	21	706
横 浜 町	12	32	78	124	41	39	X	999	X	1,093	1216
東 北 町	90	950	43	1,088	75	181	25	112	0	394	1,481
六ヶ所村	4	331	2	341	106	227	X	0	X	333	675
おいらせ町	37	535	29	600	11	12	41	-	1	65	665
上北計	634	4,299	266	5,222	1,211	703	1,370	1,474	61	4,844	10,064
県	3,890	7,533	11,670	23,301	1,612	879	1,852	4,580	124	9,403	32,706
上北/県	16.3%	57.1%	2.3%	22.4%	75.1%	80.0%	74.0%	32.2%	49.2%	51.1%	30.8%

注)「0」：単位に満たないもの（例：0.4千万円→0千万円）

「-」：事実不詳または調査を欠くもの

「X」：個人または法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

[令和3年市町村別農業産出額（推計）]

(3) 農家数

上北地域の総農家数は、令和2年には6,630戸で県全体の18.2%を占めている。このうち販売農家は5,177戸で、平成27年対比77.2%と減少している。

農業就業人口は、65歳以上の割合が49.1%と高齢化が進んでいる。

上北の市町村別農家戸数等の推移（単位：戸、％）

市町村	総農家数	販売農家	自給的農家
十和田市	2,307	1,865	442
三 沢 市	436	374	62
野辺地町	120	51	69
七 戸 町	1,008	769	239
六 戸 町	746	598	148
横 浜 町	228	119	109
東 北 町	1,021	857	164
六ヶ所村	217	161	56
おいらせ町	547	383	164
上北計	6,630	5,177	1,453
県	36,465	28,062	8,403
上北/県	18.2%	18.4%	17.3%

[2020 農林業センサス]

上北の市町村別農業就業人口の年齢構成 (単位：人、%)

市町村	15～29歳	30～59歳	60歳以上	うち65歳以上	農業就業人口計	65歳以上の比率
十和田市	268	1,608	3,052	2,521	4,928	51.2
三沢市	49	332	555	443	936	47.3
野辺地町	4	40	85	67	129	51.9
七戸町	137	718	1,269	1,056	2,124	49.7
六戸町	69	504	968	767	1,541	49.8
横浜町	11	101	173	142	285	49.8
東北町	142	826	1,377	1,066	2,345	45.5
六ヶ所村	16	152	234	170	402	42.3
おいらせ町	62	325	593	474	980	48.4
上北計	758	4,606	8,306	6,706	13,670	49.1
県	3,468	28,482	44,118	35,216	72,618	48.5
上北/県	20.8	18.5	18.8	19.0	18.8	-

[2020 農林業センサス]

(4) 将来人口の推計値

多くの市町村で、2020年から2030年の間に人口が1割程度減少すると推計されている。

上北の市町村別人口の推計値 (単位：人、%)

市町村	2020年の総人口	2020年の総人口を100としたときの指数						2030年の総人口	75歳以上の構成比
		2025	2030	2035	2040	2045	2050		
十和田市	60,378	94.7	89.0	83.1	77.0	70.7	64.5	53,728	24.2
三沢市	39,152	95.8	91.2	86.6	81.7	76.5	71.1	35,706	18.2
野辺地町	12,374	88.7	80.5	72.3	64.5	57.0	49.7	9,960	27.7
七戸町	14,556	90.9	82.0	73.4	64.9	56.9	49.5	11,931	29.6
六戸町	10,447	96.3	93.2	89.4	85.6	81.6	77.5	9,740	22.0
横浜町	4,229	92.4	84.6	77.0	69.8	62.5	55.6	3,579	28.6
東北町	16,428	92.1	84.4	76.9	69.5	62.3	55.5	13,872	27.2
六ヶ所村	10,367	95.1	90.2	85.0	79.2	73.0	66.7	9,349	16.9
おいらせ町	24,273	98.4	95.9	92.5	88.4	83.8	78.8	23,271	18.5
上北計	192,204	94.6	89.0	83.3	77.5	71.4	65.4	171,136	22.6
県	1,237,984	93.5	87.0	80.4	73.9	67.3	61.0	1,076,878	23.4

[国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年（2023）年推計）」]

(5) 担い手

ア 認定農業者

管内における令和5年3月末現在の認定農業者数は、1,987経営体となっている。

イ 新規就農者と4Hクラブ員

令和4年度の新規就農者は62人となっている。

4Hクラブには令和5年度に45人の農業青年が所属し、プロジェクト活動や交流会等の活動を行っている。

ウ 農業経営士、青年農業士、ViC・ウーマン

令和5年度は農業経営士38人、青年農業士36人、ViC・ウーマン49人の計123人が、農業リーダーとして地域農業の振興に活躍している。

上北の農業リーダー数 (単位：人)

市町村名	農業経営士		青年 農業士	小計	ViC・ ウーマン	合計
	名誉	現役				
十和田市	16	5	5	26	10	36
三沢市	5	2	2	9	2	11
野辺地町	3	1	0	4	4	8
七戸町	3	4	2	9	5	14
六戸町	10	8	3	21	5	26
横浜町	0	1	1	2	6	8
東北町	6	11	12	29	9	38
六ヶ所村	4	1	4	9	2	11
おいらせ町	2	5	7	14	5	19
上北計	49	38	36	123	48	171

(6) 管内の主要作物・野菜作付面積・主要家畜飼養頭羽数

ア 主要作物作付面積 (令和5年産)

(単位：ha)

市町村名	水稻	主要作物			大豆	麦	そば	なたね	葉たばこ
		主食用	飼料用	その他					
十和田市	4,197	2,669	1,060	468	315	120	204	2	5
三沢市	394	183	206	5	-	1	1	10	-
野辺地町	16	16	-	-	-	-	10	-	-
七戸町	2,287	1,102	811	374	251	4	29	-	7
六戸町	992	604	336	52	25	-	46	-	10
横浜町	148	135	13	-	-	0	1	3	-
東北町	1,554	988	474	92	23	-	16	-	8
六ヶ所村	67	33	34	-	-	-	-	-	-
おいらせ町	530	378	149	3	0	2	2	2	-
上北計	10,185	6,108	3,083	994	614	127	309	17	30

※「飼料用」は飼料用米、WCS用稲、「その他」は、加工用米、米粉用米、輸出用米、備蓄米

[令和5年産の水田における地域農業再生協議会別の作付状況について (農林水産省)]

[葉たばこ：令和5年 青森県たばこ耕作組合調べ]

イ 主要野菜作付面積（令和5年産）

（単位：ha）

市町村	ながいも	にんにく	ごぼう	だいこん	にんじん	キャベツ	ねぎ	トマト	ばれいしょ	こかぶ
十和田市	224	397	271	63	10	6	105	1	0	3
三沢市	154	171	309	120	179	4	0	0	64	0
野辺地町	21	0	2	0	1	0	0	0	2	35
七戸町	65	300	14	2	0	3	4	11	0	2
六戸町	83	116	225	39	67	0	0	0	2	0
横浜町	29	4	13	0	1	0	0	0	142	0
東北町	324	137	225	100	43	27	4	2	61	33
六ヶ所村	151	3	21	41	25	14	0	0	9	0
おいらせ町	60	20	160	300	220	96	2	1	7	0
上北計	1111	1147	1240	665	545	150	116	15	288	73

※合計値は小数点以下の四捨五入により一致しない

[令和5年度 上北地域県民局調べ]

ウ 主要家畜飼養頭羽数（令和5年2月1日現在）

（単位：頭、千羽）

種目 市町村名	乳用牛（雌）		肉用牛		豚	採卵鶏	ブロイラー
	うち 2歳以上	うち 繁殖雌					
上北計	9,717	6,856	37,325	8,465	258,766	1,139	4,034
県計	12,056	8,438	56,539	14,312	392,636	5,776	8,405
上北/県	80.6%	81.3%	66.0%	59.1%	65.9%	19.7%	48.0%

[令和5年 県畜産課調べ]

2 令和5年度生育観測ほ及び各種展示ほ一覧

(1) 水稲

ア 生育観測ほ

市町村名	区 分	地 点	品 種 名	担 当	備 考
十和田市	県生育観測ほ	晴 山	まっしぐら	米田 一典	
	地区生育観測ほ	藤 坂	まっしぐら	附田 常雄	
		沢 田	まっしぐら	沢井 清治	
七戸町	県生育観測ほ	道ノ上	まっしぐら	天間 正大	
	地区生育観測ほ	向 田	まっしぐら	赤沼 秀徳	
東北町	県生育観測ほ	上 野	まっしぐら	蝦名 勝四郎	
	地区生育観測ほ	内蛭沢	まっしぐら	蛭沢 渉	
野辺地町	地区生育観測ほ	川 目	まっしぐら	荒谷 房志	
横浜町	地区生育観測ほ	本 町	まっしぐら	杉山 和彦	
三沢市	地区生育観測ほ	浜三沢	まっしぐら	種市 浩継	
六戸町	地区生育観測ほ	上吉田	まっしぐら	赤石 義周	奨決
おいらせ町	県生育観測ほ	本 村	まっしぐら	田中 正幸	
	地区生育観測ほ	日ヶ久保	まっしぐら	沼端 務	
六ヶ所村	地区生育観測ほ	平 沼	まっしぐら	橋本 利喜雄	

イ 農薬・肥料展示ほ

市町村名	資 材 名	地 点	内 容 等	担 当
十和田市	(仮称) NA水稲一発1号	三本木	肥 料	中沢 聖弥
	アカツキ豆つぶ250	八 郷	除草剤	佐々木 太郎

ウ その他(事業等)

市町村名	展 示 区 分	地 点	担 当
十和田市	「はれわたり」指導拠点ほ	藤 坂	附田 常雄
		沢 田	小川 広徳
	「あおもりっこ」指導展示ほ	一本木沢	太田 浩司
七戸町	「はれわたり」指導拠点ほ	中 岫	田嶋 豊春
		蒼 前	天間 幸二郎
	「吟鳥帽子」調査ほ	荒屋平	気田 修
三沢市	飼料用品種展示ほ	庭 構	(農)フラップあぐり北三沢
六戸町	「はれわたり」指導拠点ほ	下吉田	赤石 義周
おいらせ町	「はれわたり」調査ほ	間 木	袴田 喜代美

(2) 畑作

ア 生育観測ほ等

品目	市町村名	区 分	地 点	品 種 名	担 当
小麦	十和田市	県生育観測ほ	相 坂	ネバリゴシ	竹ヶ原 善昭
		地区生育観測ほ	赤 沼	ネバリゴシ	(農)赤沼営農組合
		地区生育観測ほ	相 坂	ネバリゴシ	十和田アグリ(株)
大豆	十和田市	県生育観測ほ	切 田	おおすず	(農)下切田
		地区生育観測ほ	赤 沼	おおすず	(農)赤沼営農組合
	七戸町	地区生育観測ほ	柳 平	おおすず	(有)みらい天間林
そば	十和田市	品種展示ほ	奥 瀬	にじゆたか	(農)中矢営農組合
	東北町	品種展示ほ	上板橋	にじゆたか	(有)みらい天間林
	野辺地町	品種展示ほ	明戸鳥井平	にじゆたか	もちの里づくり協議会

イ その他(事業等)

品目	市町村名	展 示 区 分	地 点	担 当
大豆	十和田市	課題解決型モデル実証ほ 大豆生産性改善展示ほ	三本木	十和田アグリ(株)

(3) 野菜

ア 生育観測ほ

品目	市町村名	区 分	地 点	品種名	担 当
にんにく	十和田市	地区生育観測ほ	沢 田	白玉王	戸籍 快之
	七戸町	県生育観測ほ	榎 林	白玉王	高田 幸三
		地区生育観測ほ	沼ノ沢	白玉王	山田 正
	東北町	地区生育観測ほ	長久保	白玉王	鎌本 幸男
地区生育観測ほ		本 村	白玉王	沼尾 賢一	
	六戸町	地区生育観測ほ	犬落瀬	白玉王	山本 初夫
ながいも	三沢市	地区生育観測ほ	上 野	園試系 6	檜山 清勝
	七戸町	地区生育観測ほ	鉢森平	庄司系	附田 晃弘
		地区生育観測ほ	宇道坂	園試系 6	寺澤 和夫
	東北町	県生育観測ほ	野田頭	庄司系	野田頭 稔
		地区生育観測ほ	滝沢平	庄司系	岡山 雄哉
			上 野	園試系 6	蛭名 精
		野田頭	トロフィー	野田頭俊一	
	六ヶ所村	地区生育観測ほ	倉 内	庄司系	高村 高雄
やまのいも	六ヶ所村	地区生育観測ほ	六 原	ネバリスター	ふじや農産
露地ねぎ	十和田市	県生育観測ほ	洞 内	夏扇パワー	中野 智仁
春だいこん	おいらせ町	県生育観測ほ	内山平	春の星	吉田 良紀
夏だいこん	東北町	地区生育観測ほ	乙 部	晩々G	乙部 大作
秋冬だいこん	東北町	県生育観測ほ	乙 部	S-139	乙部 大作
ばれいしょ	三沢市	県生育観測ほ	庭 構	メイクイン	水沢 勝弘
	東北町	地区生育観測ほ	土 橋	メイクイン	土橋 豊
春夏にんじん	六戸町	県生育観測ほ	上吉田	彩誉7	山内松次郎
夏にんじん	東北町	地区生育観測ほ	小川原	紅吉	小笠原佳大
ご ぼ う	三沢市	県生育観測ほ	猫 又	柳川理想	駒沢 慎
	東北町	地区生育観測ほ	乙 部	柳川理想	乙部 大作

イ 農薬・肥料展示ほ

品目	市町村名	資材名	内容等	地 点	担 当
ね ぎ	十和田市	ダブルシューター SE	殺虫剤	洞 内	久野 尚樹
にんにく	十和田市	腐植酸入り にんにく専用肥料	肥 料	切 田	畑山 幸彦
ご ぼ う	東北町	(仮称)ニッピ 野菜専用一発肥料	肥 料	大 浦	駒沢 慎

ウ その他（事業等）

品目	市町村名	展 示 区 分		地 点	担 当
にんにく	十和田市	新品種栽培 技術実証ほ	JA十和田おいらせ	高 清 水	JA十和田おいらせ
	東 北 町		JAゆうき青森	水 喰	甲地 武仁
	三 沢 市		JAおいらせ	庭 構	小向 誠広
	七 戸 町	持続可能な中部上北スタイル		柴館道ノ下	木村 悠平
	東 北 町	水田農業推進事業実証ほ		弥 太 郎	東北農事組合法人
ながいも	七 戸 町	種苗増殖方法改善モデル実証ほ		宇道坂	寺澤 和夫
	十和田市	増殖方法改善	JA十和田おいらせ	大 沢 田	大久保利美
	三 沢 市	種苗導入効果	JAおいらせ	庭 構	種市 精一
	東 北 町	現地実証ほ	JAゆうき青森	切左坂	久保田大地
	三 沢 市	新品種栽培 技術実証ほ	JAおいらせ	庭 構	浦田 忠博
	七 戸 町		JA十和田おいらせ	宇道坂	寺澤 和夫
	東 北 町		JAゆうき青森	外 蛭 沢	向井 博徳
こ か ぶ	野辺地町	品種比較展示ほ		明 前	村山 玲央
	東 北 町			高 森	安村 寛

(4) 果樹

品 目	市町村名	区 分	地 点	品 種 名	担 当
り ん ご	十和田市	地区生育観測ほ	米 田	ふじ	今泉 良七
			米 田	ふじ、王林、 ジョナゴールド	大竹 光雄
ブルーベリー	十和田市	地区生育観測ほ	藤 島	アーリーブルー ほか7品種	国分 弘志

(5) 飼料作物

品 目	市町村名	区 分	地 点	品 種 名	担 当
牧 草	十和田市	県生育観測ほ	米 田	オーチャードグラス	布施 和昭
飼 料 用 とうもろこし	東 北 町	県生育観測ほ	北 栄	パ°イオニア115日 スノーデント110日	北栄トラクター 利 用 組 合

3 上北地域の農業士会

(1) 農業士会の状況

令和6年1月1日現在

団体名	会長	人数			
		名誉 農業経営士	農業 経営士	青年 農業士	計
十和田地区農業士会	天間 正大	19	9	7	35
三沢地区農業士会	遠藤 忍	19	19	14	52
六戸町農業士会	佐藤 隆	10	8	3	21
おいらせ町農業士会	遠藤 忍	2	5	7	14
野辺地地区農業士会	乙部 英夫	11	10	15	36

(2) 各地区市町村別人数内訳

令和6年1月1日現在

地区名	市町村名	名誉 農業経営士	農業経営士	青年農業士	計
十和田地区	十和田市	16	5	5	26
	七戸町	3	4	2	9
三沢地区	三沢市	5	2	2	9
	六戸町	10	8	3	21
	東北町(旧上北町)	2	4	2	8
	おいらせ町	2	5	7	14
野辺地地区	野辺地町	3	1	0	4
	東北町(旧東北町)	4	7	10	21
	横浜町	0	1	1	2
	六ヶ所村	4	1	4	9
合計		49	38	36	123

4 かみきたVIC・ウーマンの会

令和6年1月1日現在

代 表 者	構 成 員				
	構成員数	市 町 村 別 内 訳			
山本 ヒデ (六戸町)	48名	十和田市	10名	横浜町	6名
		三沢市	2名	東北町	9名
		野辺地町	4名	六ヶ所村	2名
		七戸町	5名	おいらせ町	5名
		六戸町	5名		

5 かみきた農と暮らしの研究会

令和6年1月1日現在

代 表 者	構 成 員			
	構成員数	市 町 村 別 内 訳		
江刺家 りつ子 (東北町)	11グループ 34名	十和田市	5グループ	13名
		六戸町	1グループ	1名
		東北町	3グループ	14名
		おいらせ町	2グループ	6名

6 とわだグリーン・ツーリズム研究会

令和5年4月1日現在

役 職	氏 名	市 町 村 名
会 長	天間 正大	七戸町
副会長	久野 礼子	十和田市
会計・書記	中屋敷 ひとみ	十和田市
監 事	寺下 良次	十和田市
	中野渡 利彦	十和田市
	竹ヶ原 祐子	十和田市
	中野 とし子	十和田市
	日野口 敏章	十和田市

7 農村青少年クラブ

(1) 上十地区4Hクラブ連絡協議会

令和6年1月1日現在

代 表 者	構 成 員	
	構成員数	市 町 村 別 内 訳
鶴ヶ崎 圭介 (東北町)	25名	東北町 21名 六ヶ所村 3名 七戸町 1名

(2) 三沢地区農村青少年クラブ連絡協議会

令和6年1月1日現在

代 表 者	構 成 員	
	構成員数	市 町 村 別 内 訳
沼田 麻憲 (三沢市)	11名	三沢市 6名 おいらせ町 5名

(3) 十和田七戸4Hクラブ

令和6年1月1日現在

代 表 者	構 成 員	
	構成員数	市 町 村 別 内 訳
佐々木 基 (十和田市)	9名	十和田市 4名 七戸町 5名

8 直売運営団体

令和5年4月1日現在

市町村名	施設名	団体・代表者名	備考
十和田市	道の駅とわだ「とわだぴあ」	株式会社産直とわだ 代表取締役社長 豊川 聡士	○
	JA十和田おいらせ ファーマーズ・マーケット かだあへれ	十和田おいらせ農業協同組合 代表理事組合長 畠山 一男	
	道の駅奥入瀬 観光物産館 「四季彩館」	十和田湖ふるさと活性化友の会 会長 高瀬 三千枝	
七戸町	道の駅しちのへ「産直七彩館」	(株)七戸物産協会 代表取締役 盛田 隆造	
三沢市	みさわビードル広場定期市	みさわ味彩の会 会長 駒沢 洋子	
	道の駅みさわ「くれ馬ぱ〜く」	道の駅みさわ産直友の会 会長 織笠 悦雄	
	みさわやさい市場	三沢市近郊やさい生産組合 組合長 根岸 金雄	
	三沢市漁協直売所	三沢市漁協協同組合 代表理事組合長 熊野 稔	
	(株)ゆめグリーン Aコープ三沢店	Aコープ三沢店 店長代理 長谷部 さゆり	
六戸町	道の駅ろくのへ 「メイプルふれあいセンター」	株式会社産直ろくのへの郷 代表取締役社長 小向 保廣	
おいらせ町	おいらせ町 味祭館	百石ふるさとの味研究会 会長 橋本 サト	○
	おはよう広場	十和田おいらせ農業協同組合 代表理事組合長 畠山 一男	
	観光農園 アグリノ里おいらせ	株式会社アグリノ里おいらせ 代表取締役 苔米地 理智子	○
	ファーマーズマルシェ hitotsubu	企業組合ノエル 代表理事 古舘 留美子	
東北町	道の駅おがわら湖「湖遊館」	道の駅おがわら湖産直友の会 会長 佐々木 祐輔	○
野辺地町	JAゆうき青森野菜販売所 あぐりハウス「すずな」	JAゆうき青森野辺地営農センター 野辺地野菜販売協議会 会長 田村敬一	
横浜町	道の駅よこはま 「菜の花プラザ」	なたねの会 会長 澤谷 久美子	○
六ヶ所村	六ヶ所村特産品販売所 六旬館	一般社団法人 六ヶ所村観光協会 会長 及川 次夫	

(※ 備考欄の○印は、「かみきた産直ネットワーク」加入組織)

9 「攻めの農林水産業」推進上北地方本部構成機関及び委員

(1) 委員

区分	構成機関・団体	地方本部委員	
農林団体	農業団体	青森県農業共済組合南部支所 上十三広域農業振興会	支所長 所長
	農協	十和田おいらせ農業協同組合	代表理事組合長
		ゆうき青森農業協同組合	代表理事組合長
		おいらせ農業協同組合	代表理事組合長
		青森県七戸畜産農業協同組合	代表理事組合長
	土地改良区	稲生川土地改良区	理事長
	森林組合	上北森林組合	代表理事組合長
農家代表	十和田地区農業士会	会長	
	三沢地区農業士会	会長	
	野辺地地区農業士会	会長	
	かみきたViC・ウーマンの会	会長	
生産・販売団体	十和田青果株式会社	代表取締役社長	
市町村	十和田市農林商工部農林畜産課	課長	
	三沢市経済部農政水産課	課長	
	野辺地町産業振興課	課長	
	七戸町農林課	課長	
	六戸町農政課	課長	
	横浜町産業振興課	課長	
	東北町農林水産課	課長	
	おいらせ町農林水産課	課長	
	六ヶ所村農林水産課	課長	
農業委員会	上十三地区農業委員会連絡協議会	会長	

(2) オブザーバー

機関・団体
生活協同組合コープあおもり
(地独) 青森県産業技術センター 野菜研究所
〃 畜産研究所
〃 農産物加工研究所
営農大学校
東北農政局青森県拠点

(3) 事務局

構成機関・団体	職名	地方本部での職名
上北地域県民局地域農林水産部	部長	本部長
	農林担当次長	副本部長
	農村整備担当次長	副本部長
	十和田家畜保健衛生所長	
	農村整備調整監	
	畜産推進監	
	林業振興課長	
	農業普及振興室長	